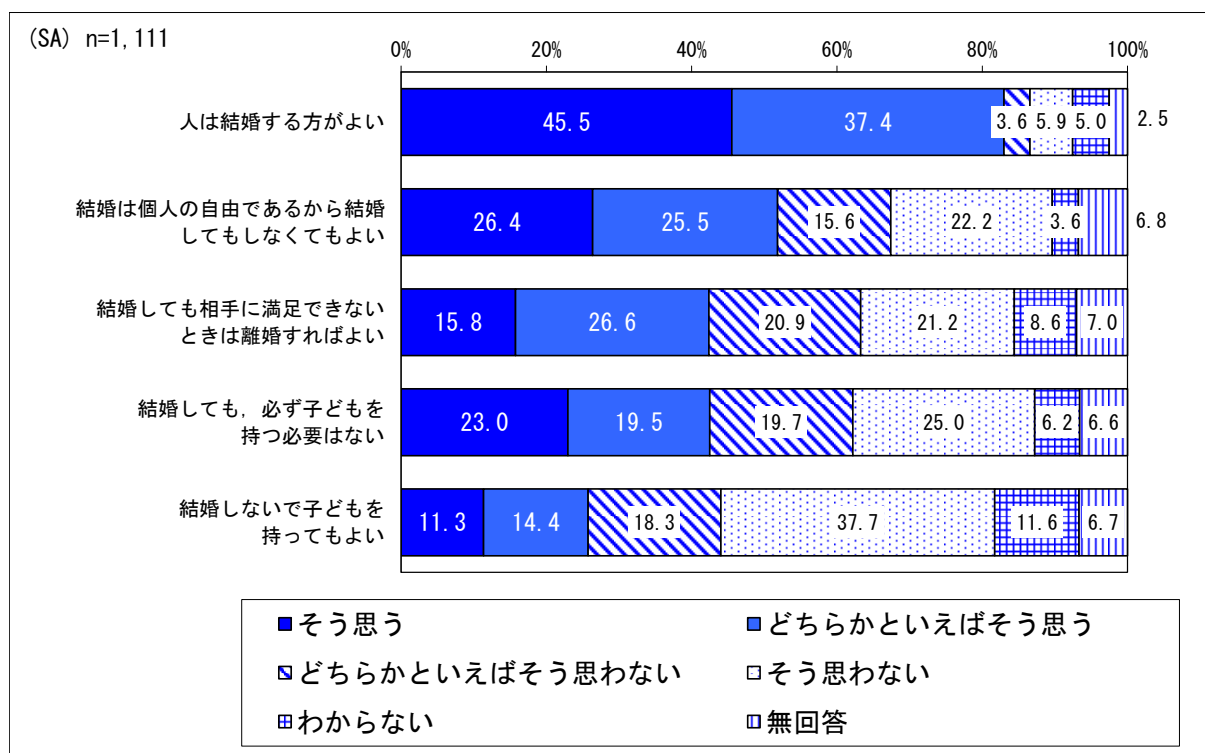


3 男女の生き方や家庭生活などに関する考え, 役割分担等

(1) 結婚や子どもを持つことへの考え

問4 結婚や子どもを持つことについてどう思いますか。(それぞれについて該当する「1～5」に○を1つ)



■回答者の8割以上は、「人は結婚する方がよい」と考えているが、一方で、約5割は、「結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい」と考えている

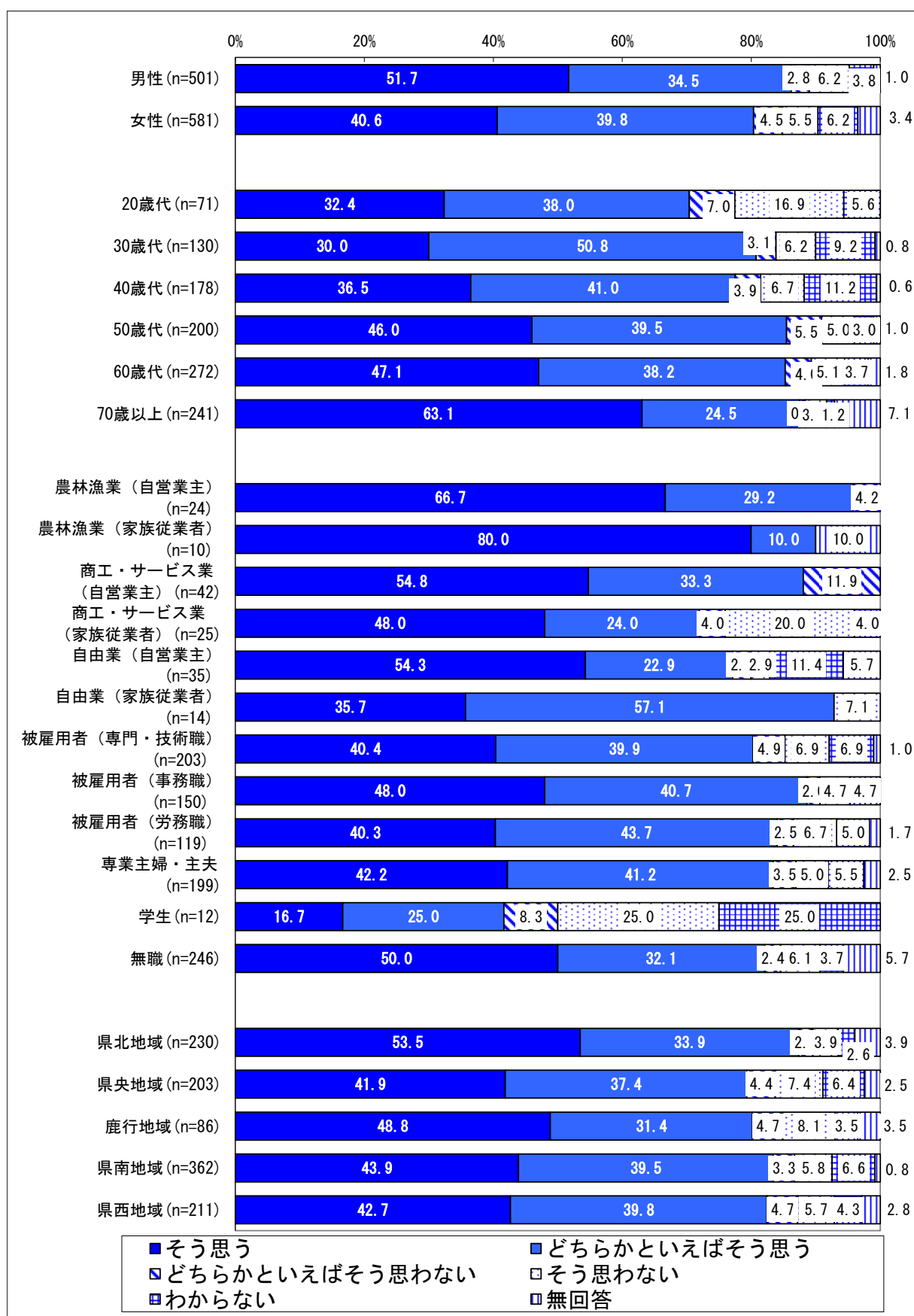
結婚や子どもを持つことへの考えについてみると、「人は結婚する方がよい」で『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が8割（全体：82.9%，男性：86.2%，女性：80.4%）を占めており性別にみると男性の割合が強い傾向にある。

「結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい」の回答で『そう思う』が約5割（全体：51.9%，男性：47.9%，女性：55.9%），「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」（全体：42.4%，男性：41.5%，女性：43.0%）と「結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない」（全体：42.5%，男性：39.2%，女性：46.0%）で『そう思う』が約4割を占めており性別にみると女性の割合が強い傾向にある。

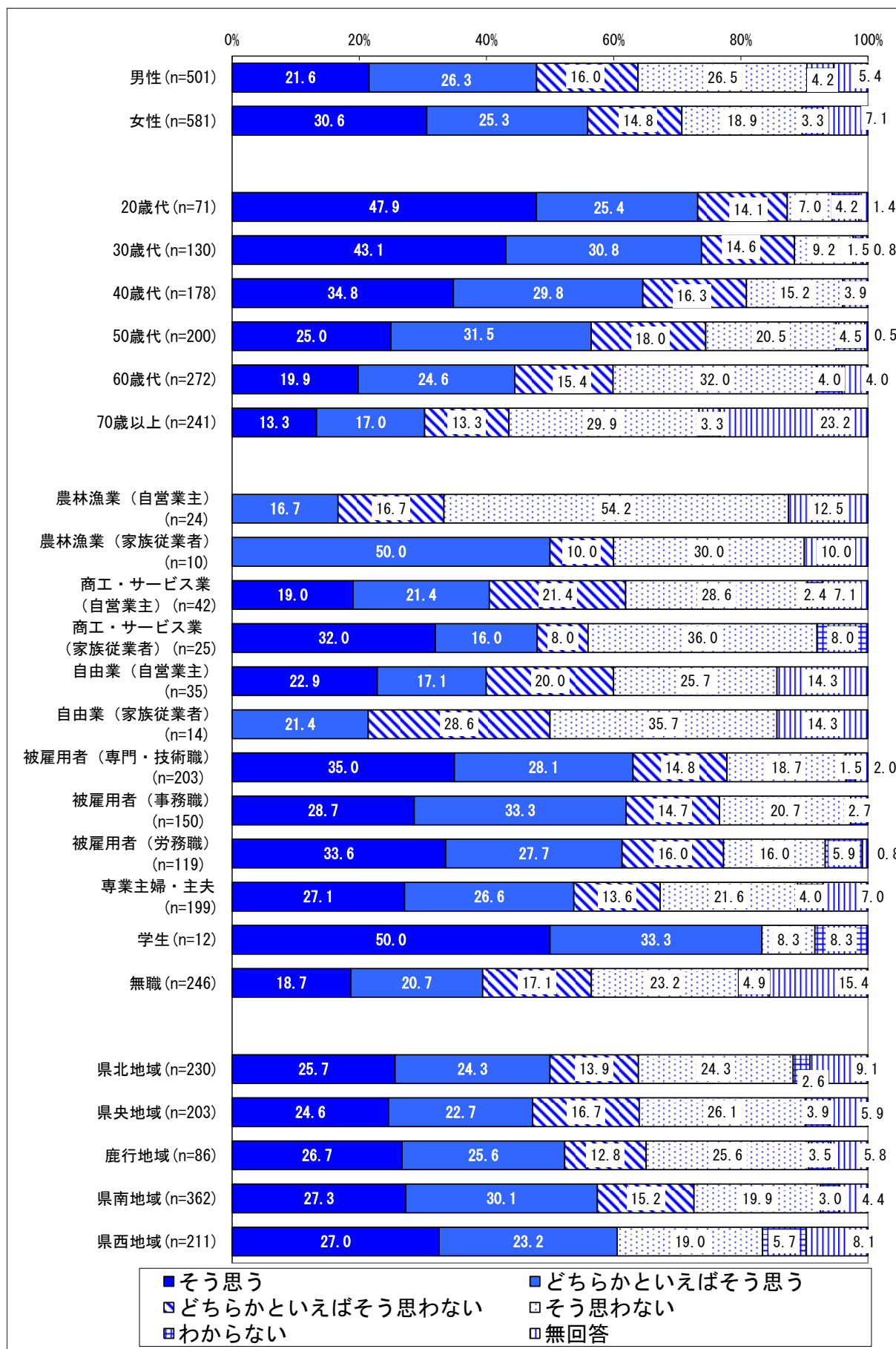
「結婚しないで子どもを持ってもよい」で『そう思う』は約2割（全体：25.7%，男性：30.0%，女性：22.0%）を占めており性別にみると男性の割合が強い傾向にある。

■結婚や子どもを持つことへの考え（各属性別）

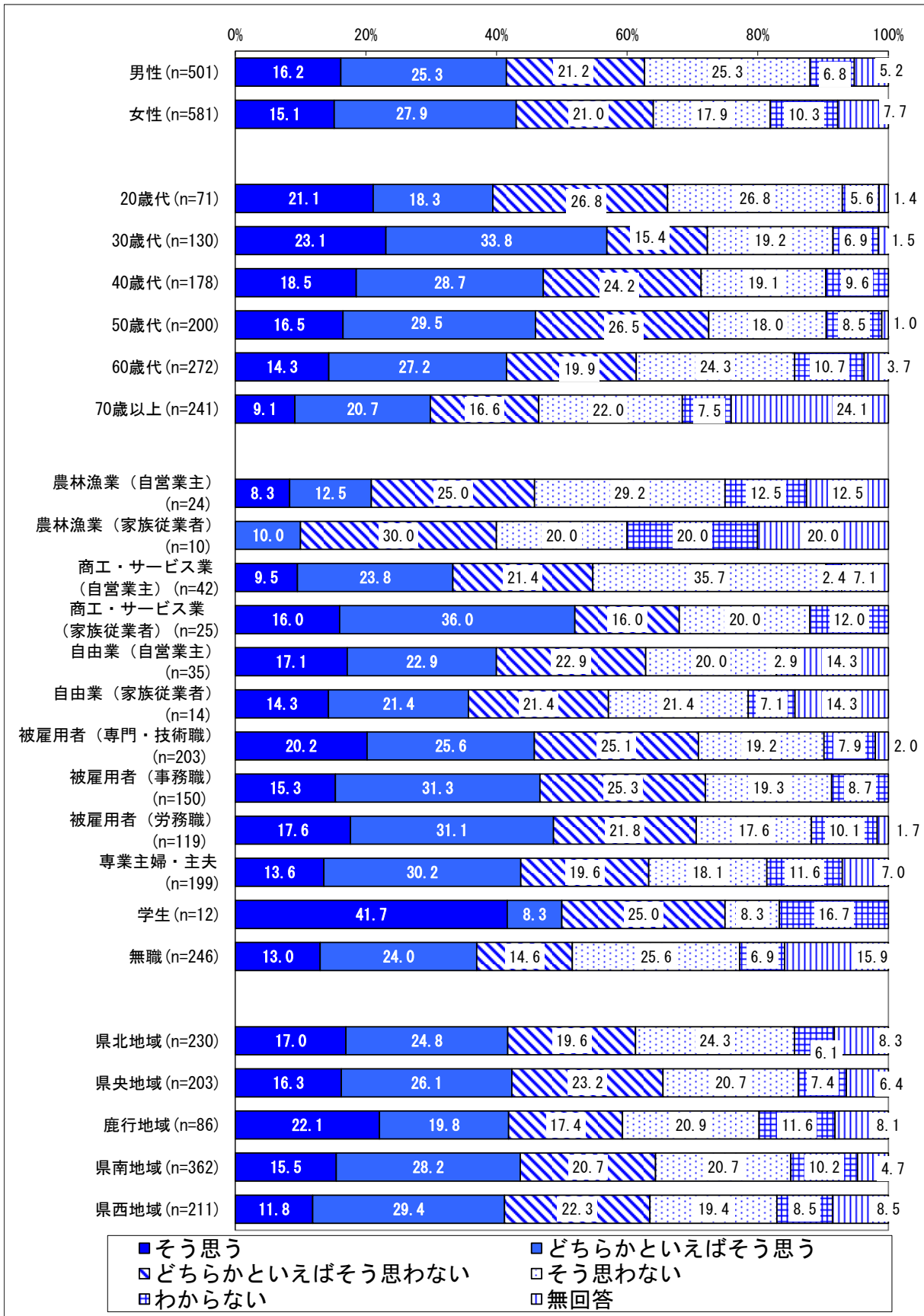
1. 人は結婚する方がよい



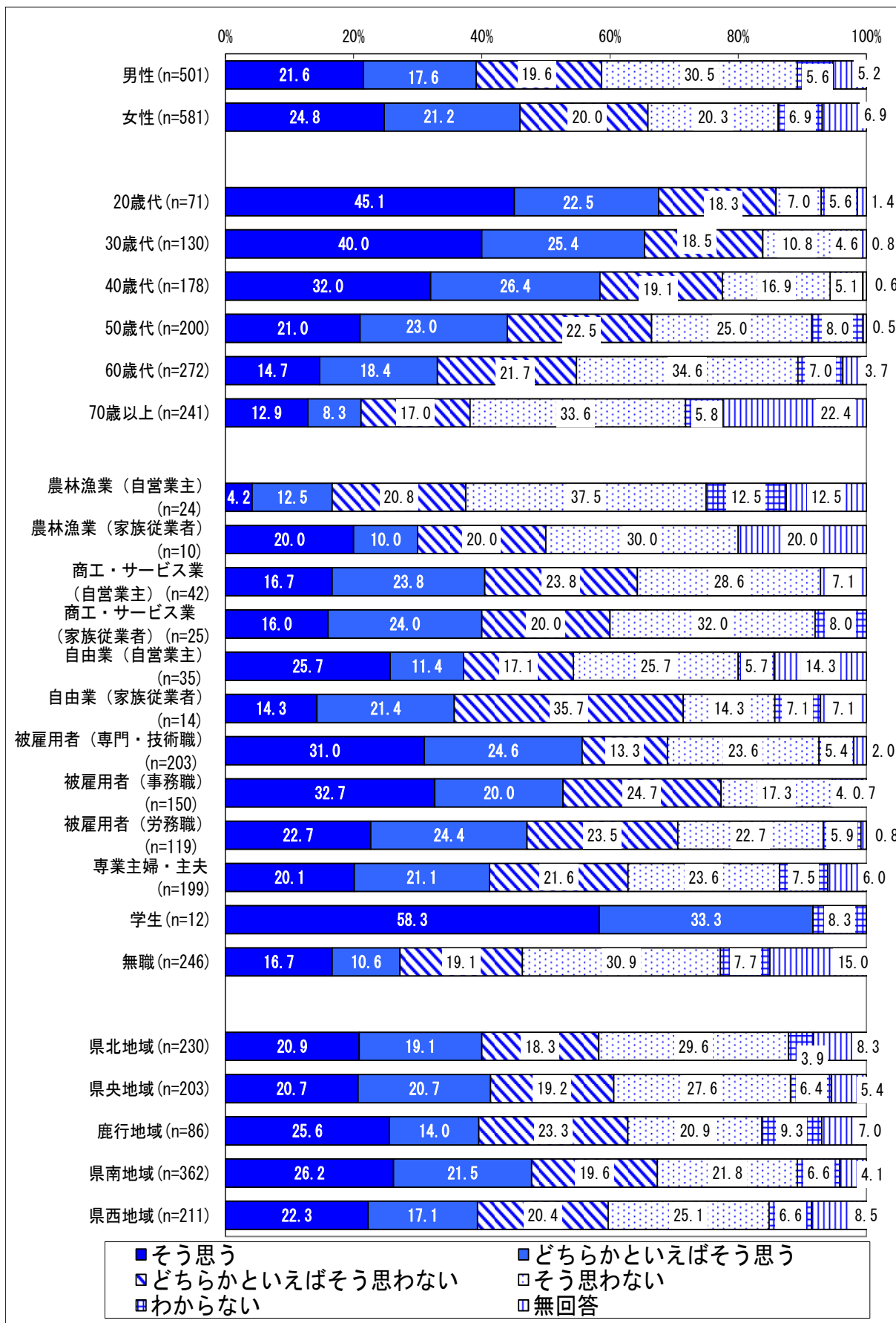
2. 結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい



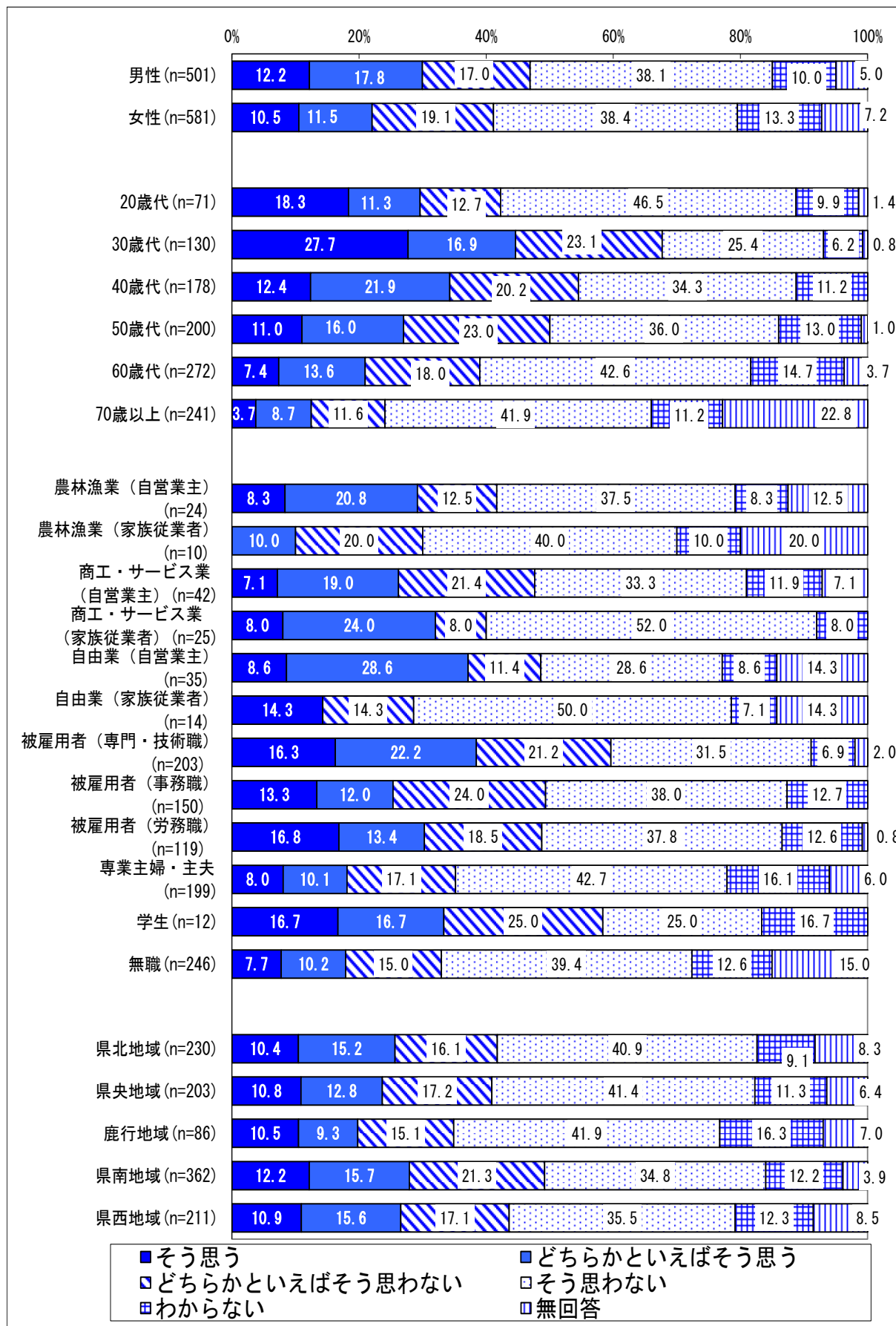
3. 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



4. 結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない

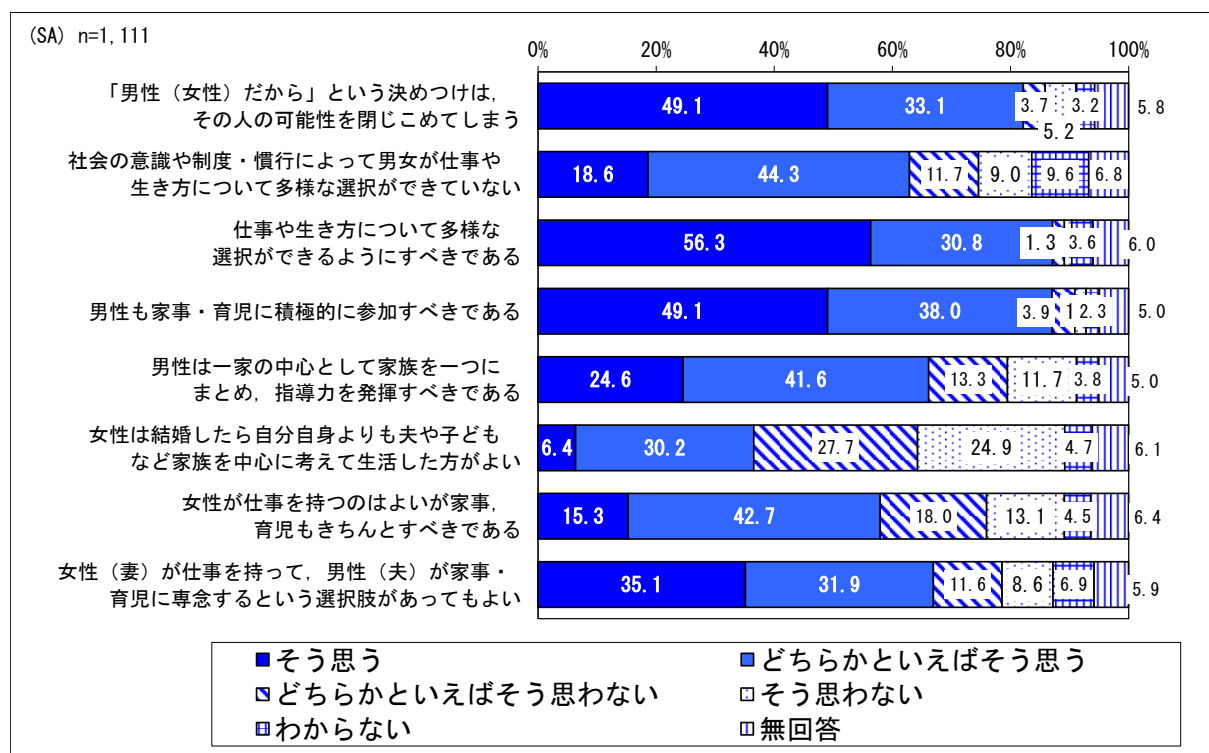


5. 結婚しないで子どもを持ってもよい

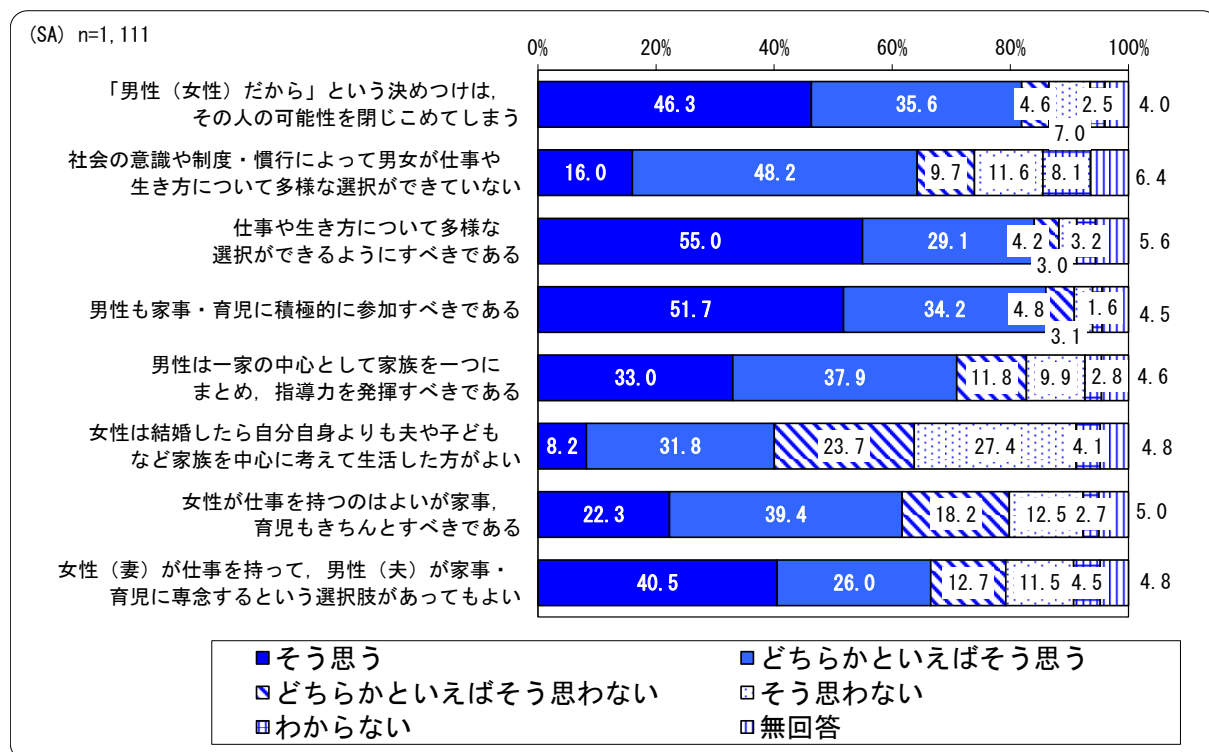


(2) 男女の生き方や家庭生活などに関する考え

問5 次にあげる男女の生き方や家庭生活などに関する考えについてどう思いますか。(それぞれについて該当する「1～5」に○を1つ)



■平成22年茨城県



■回答者の8割以上は、『男性（女性）だから』という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう」、「仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである」、「男性も家事・育児に積極的に参加すべきである」と考えているが、一方で、6割は、「女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである」と考えている

男女の生き方や家庭生活に関する考えについてみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』と回答した割合は、『男性（女性）だから』という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう」（82.2%）、「仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである」（87.1%）、「男性も家事・育児に積極的に参加すべきである」（87.1%）で8割を超えており、男女が性の違いによって生き方の可能性に制限を受けるべきではないと考えている。

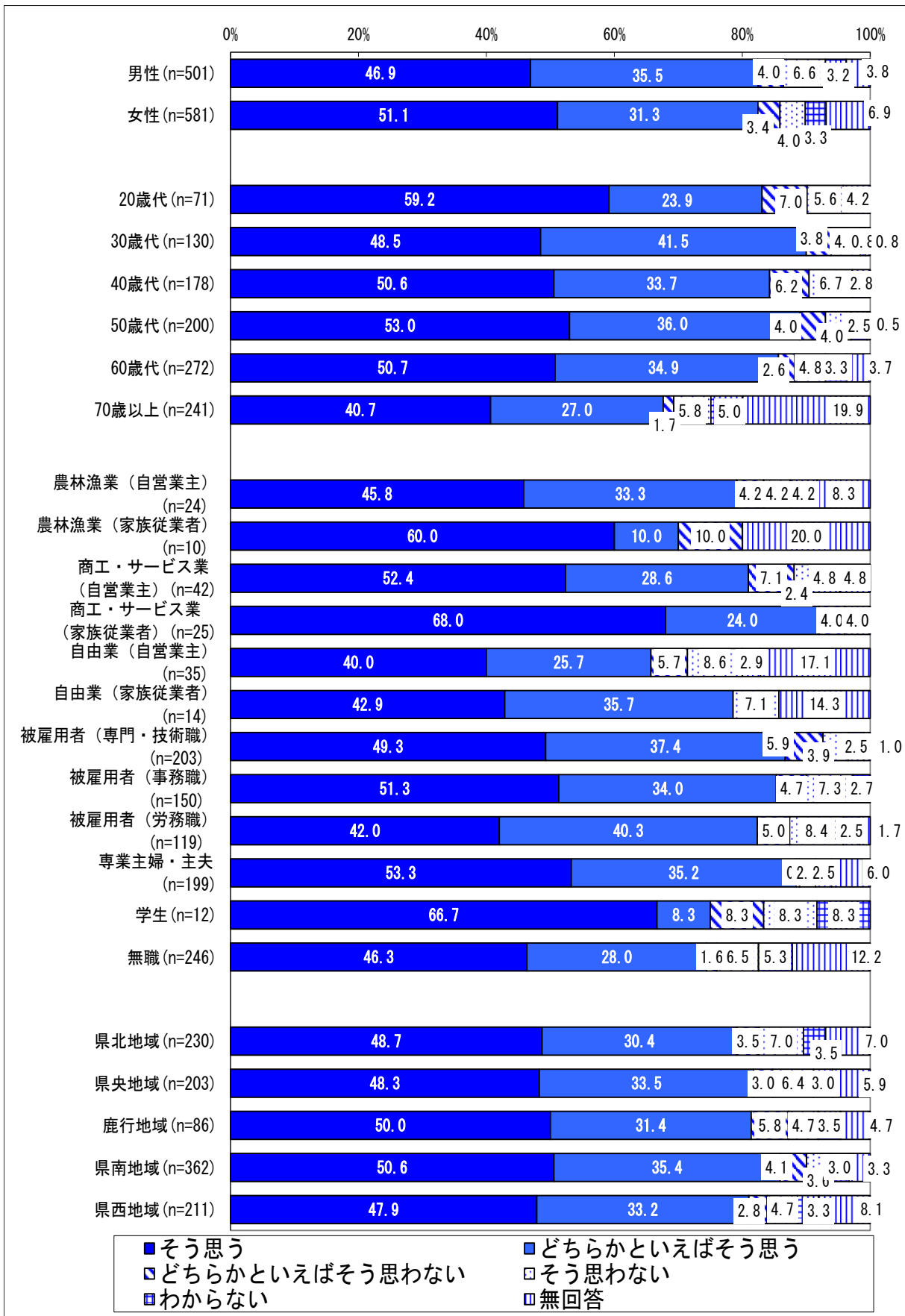
一方、「男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである」（66.2%）や「女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである」（58.0%）についても約6割が『そう思う』と回答しており、家庭生活などにおける性別による固定的な役割分担意識があるということが考えられる。

性別にみると、全般的に女性より男性の方に性別役割分担意識がやや強い傾向にある。

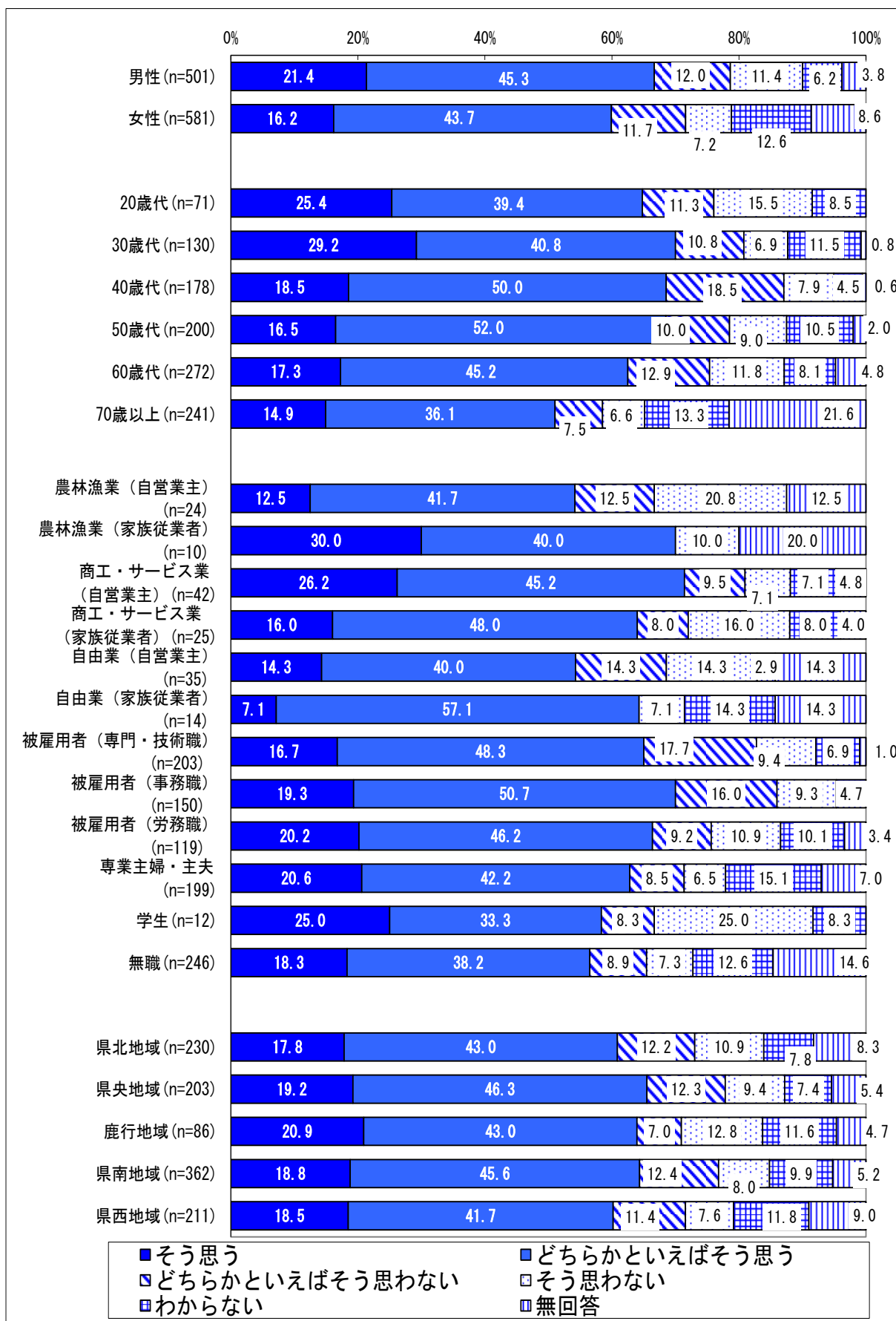
年齢別にみると、特に「女性（妻）が仕事を持って、男性（夫）が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい」という考えに対しては、20歳代（80.3%）、30歳代（78.5%）、40歳代（80.9%）と、約8割となっている。

■男女の生き方や家庭生活などに関する考え（各属性別）

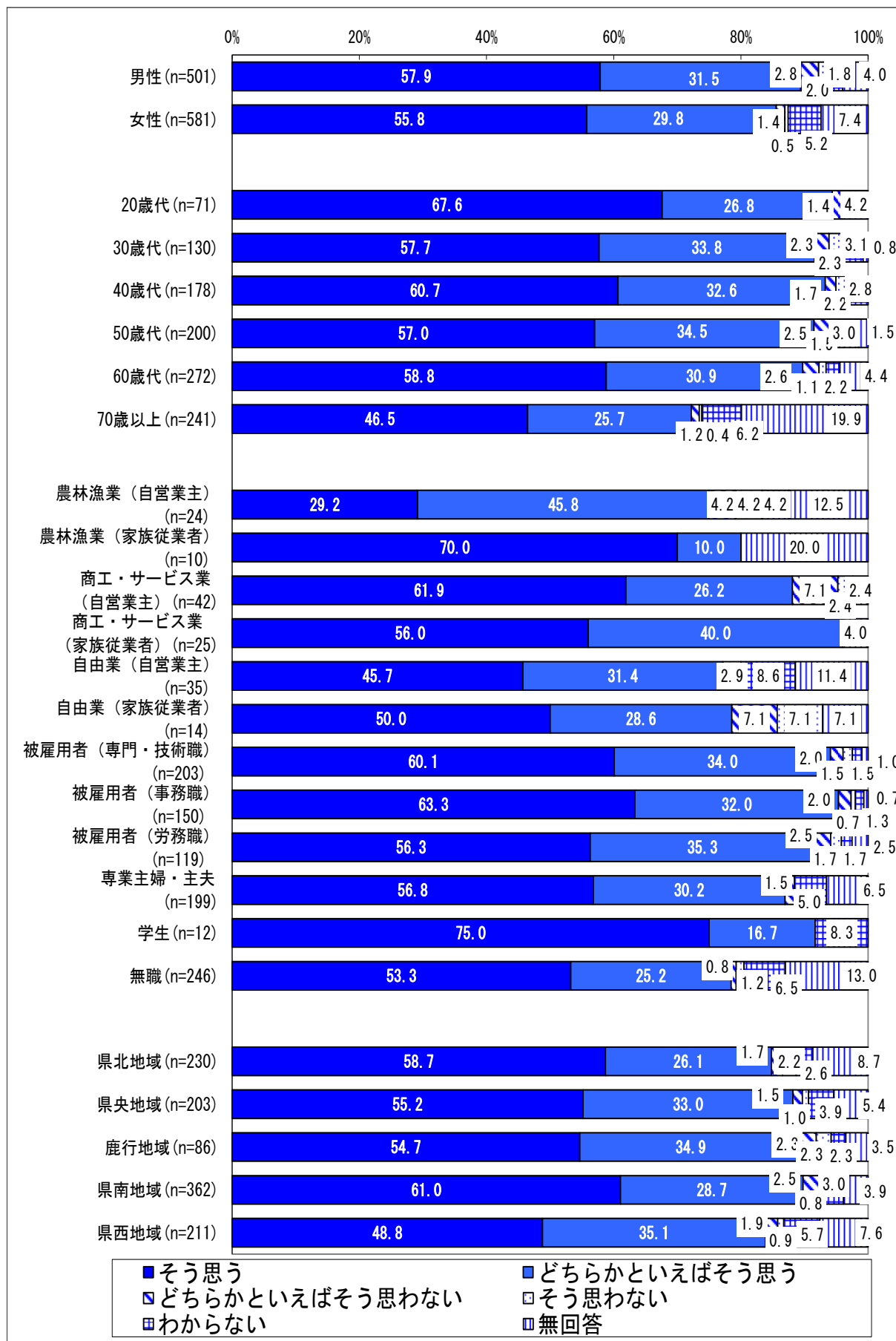
1. 「男性（女性）だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう



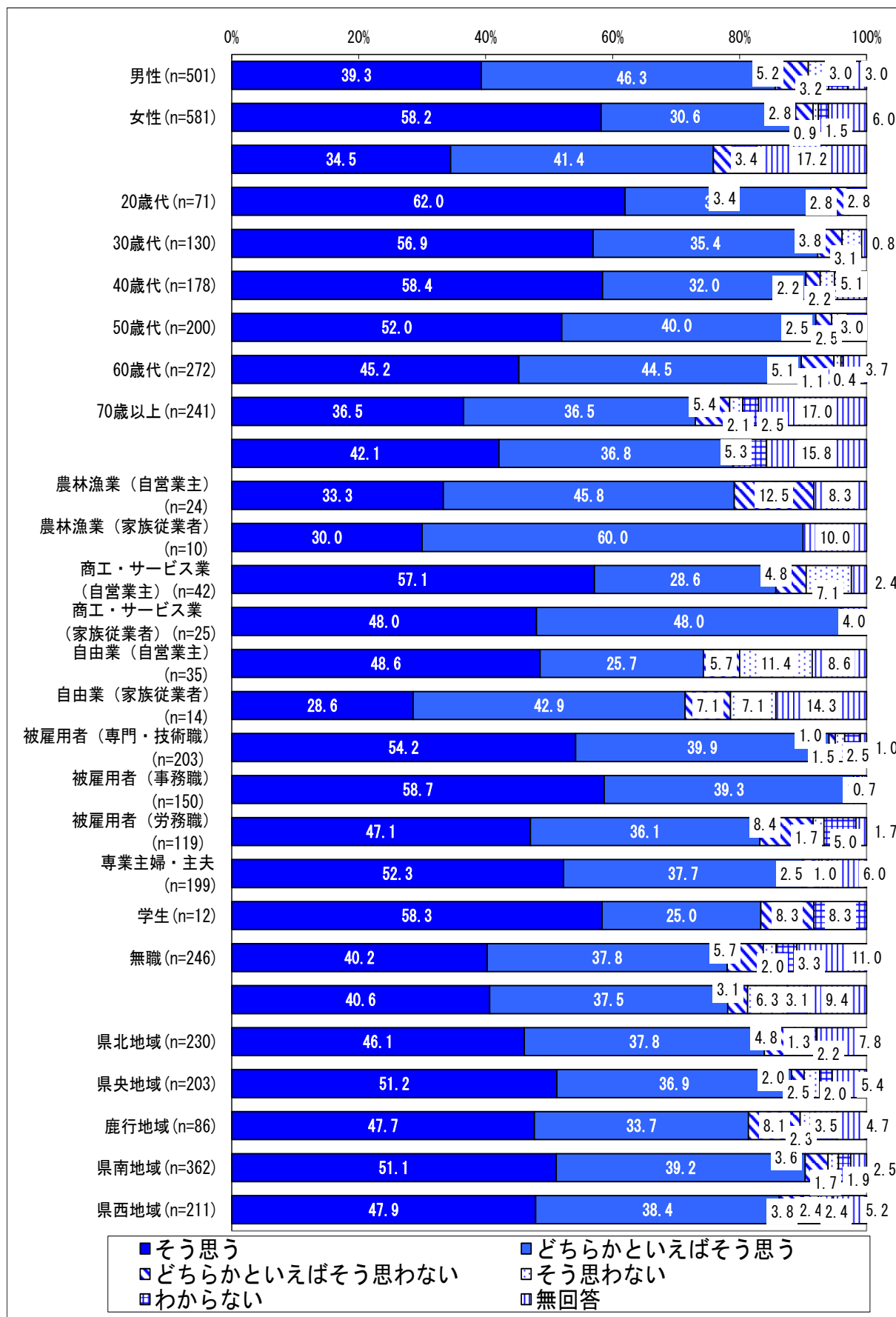
2. 社会の意識や制度・慣行によって男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない



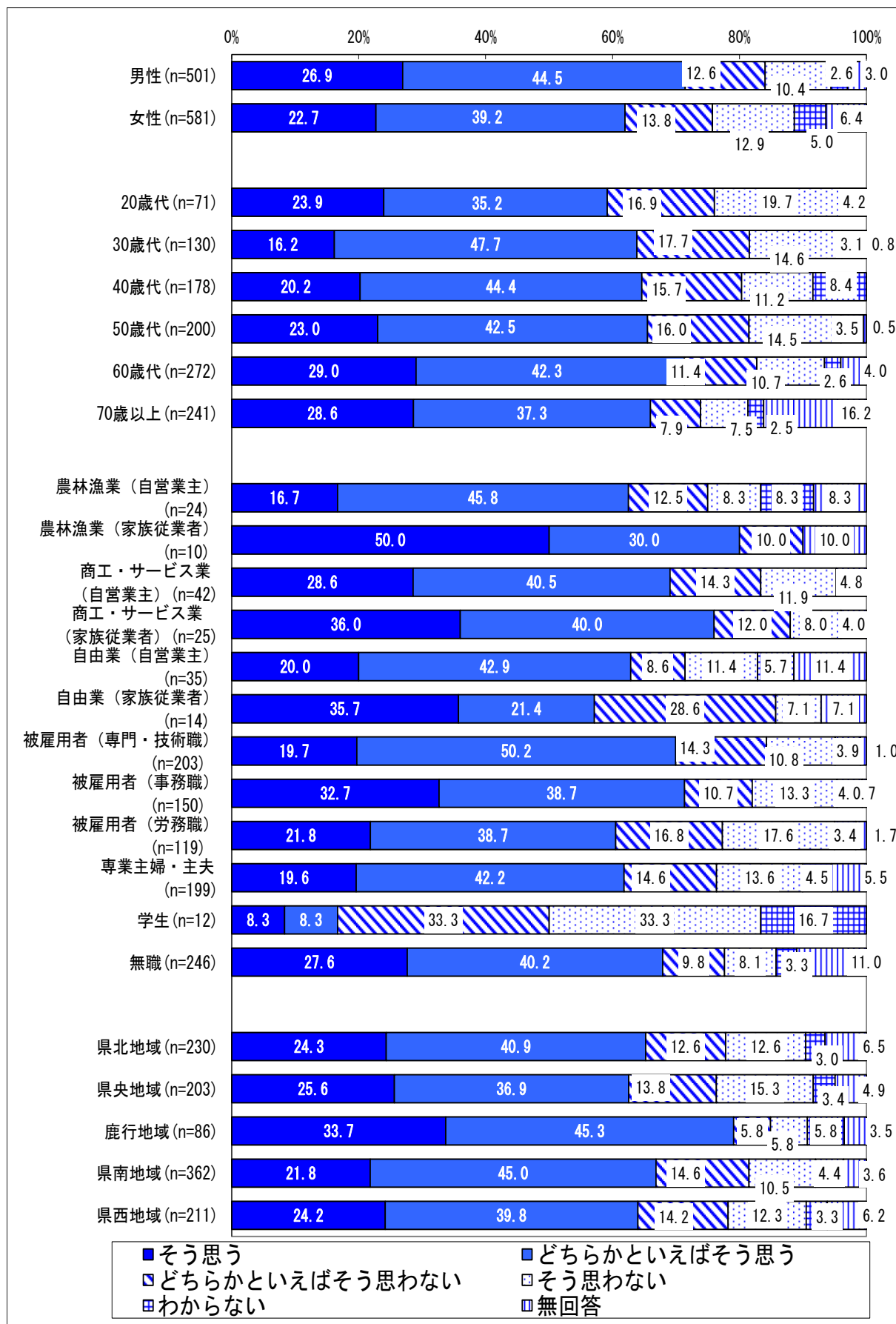
3. 仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである



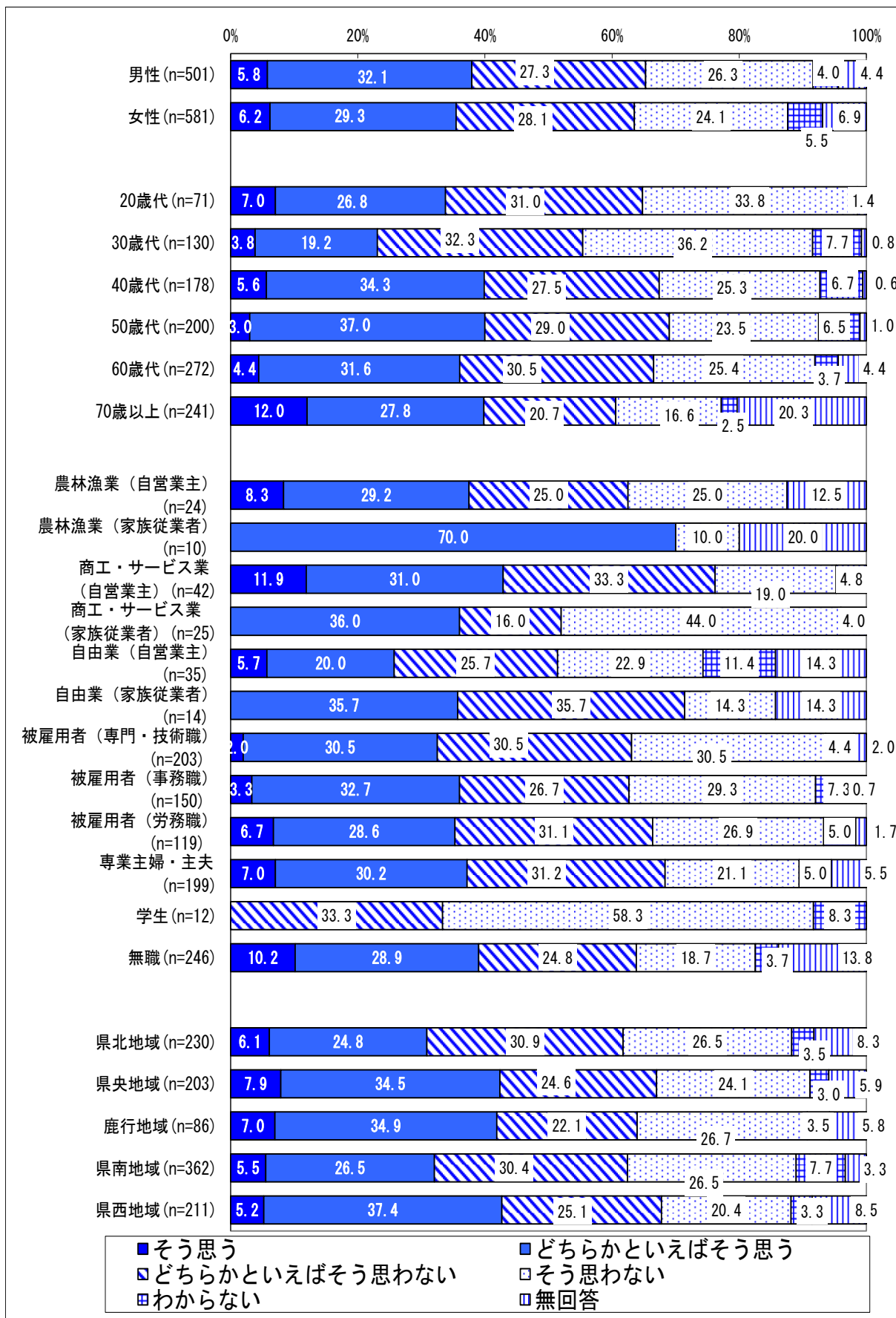
4. 男性も家事・育児に積極的に参加すべきである



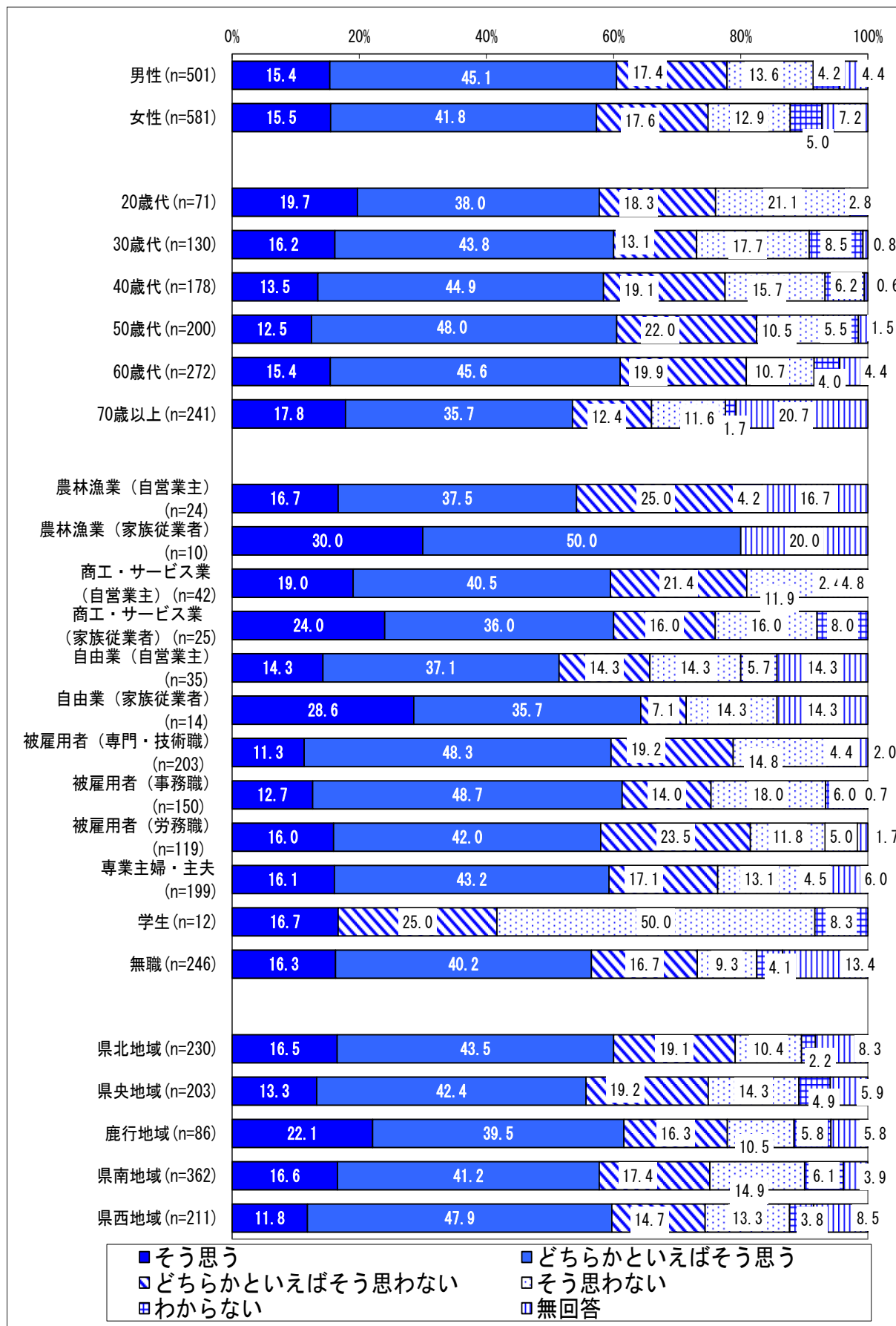
5. 男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである



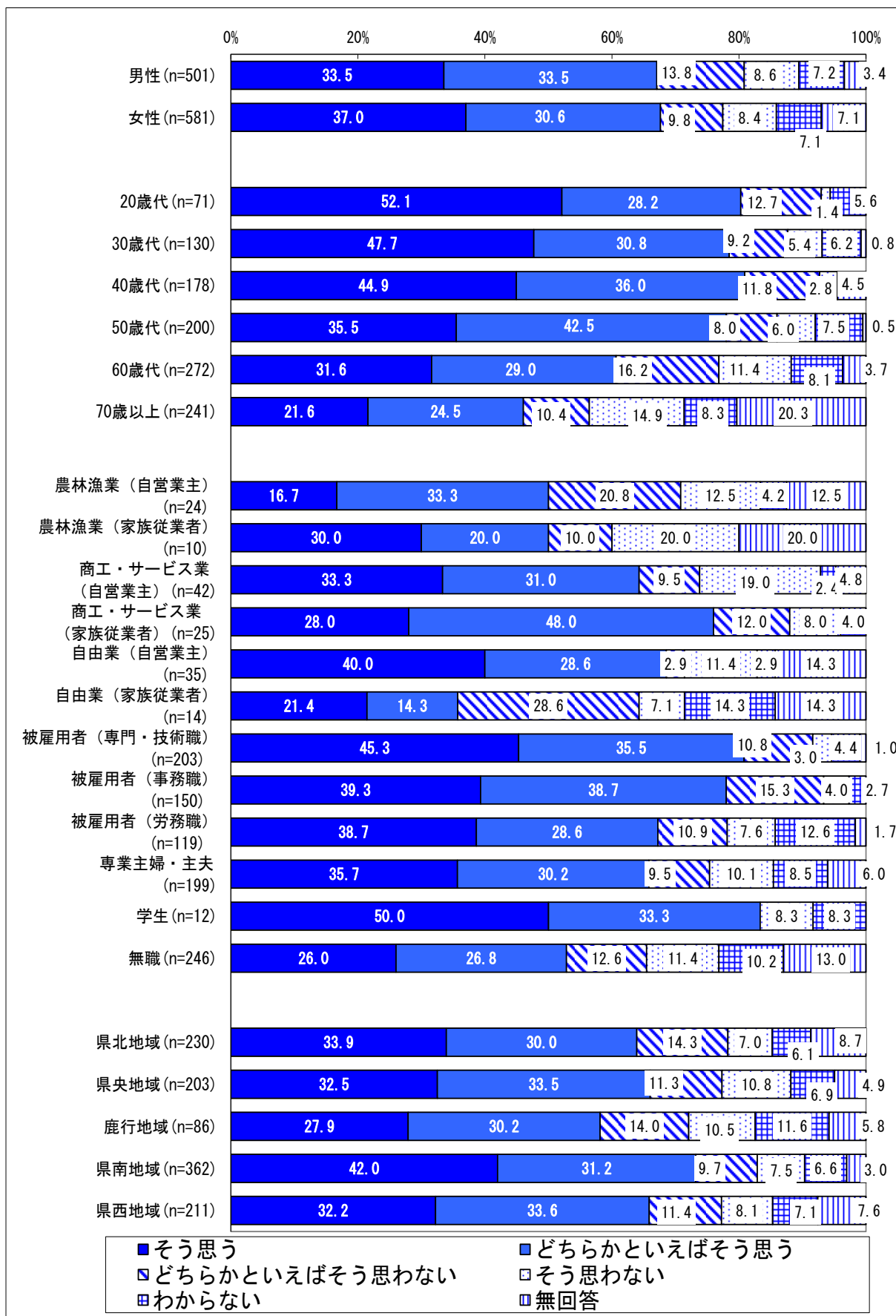
6. 女性は結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい



7. 女性が仕事を持つのはよいが家事，育児もきちんとすべきである

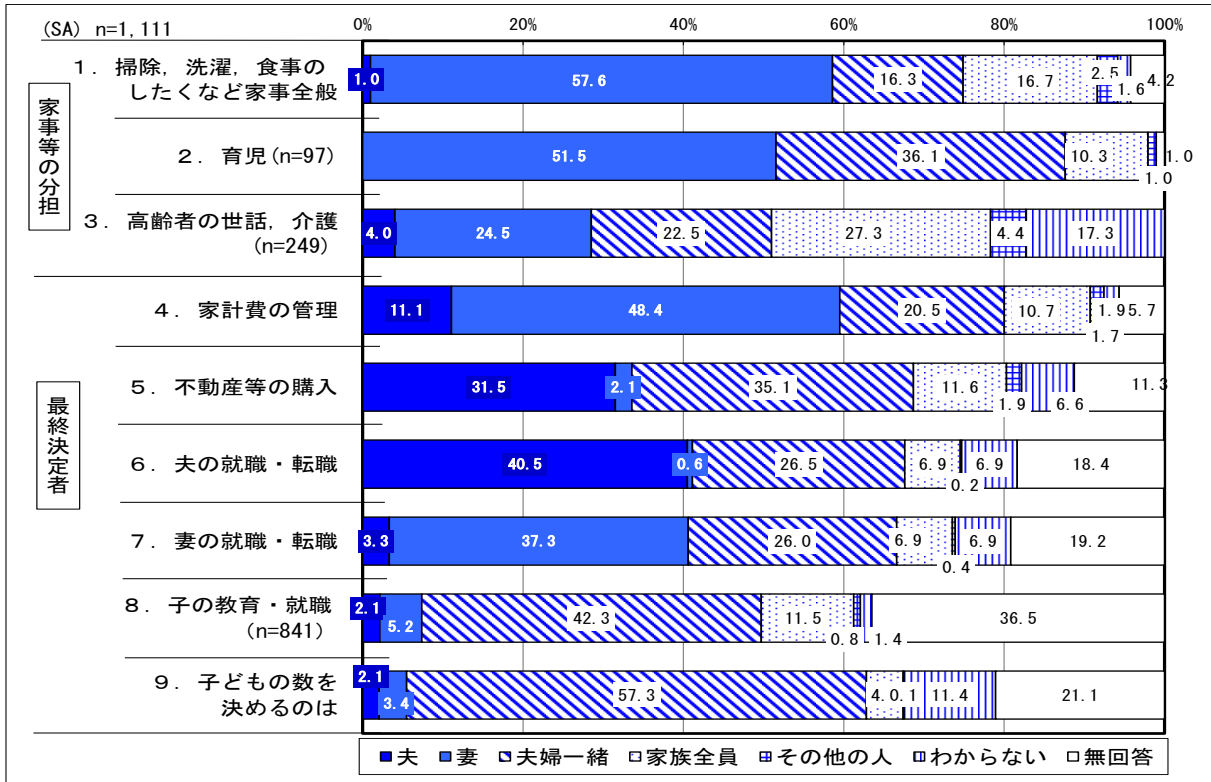


8. 女性（妻）が仕事を持って、男性（夫）が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい

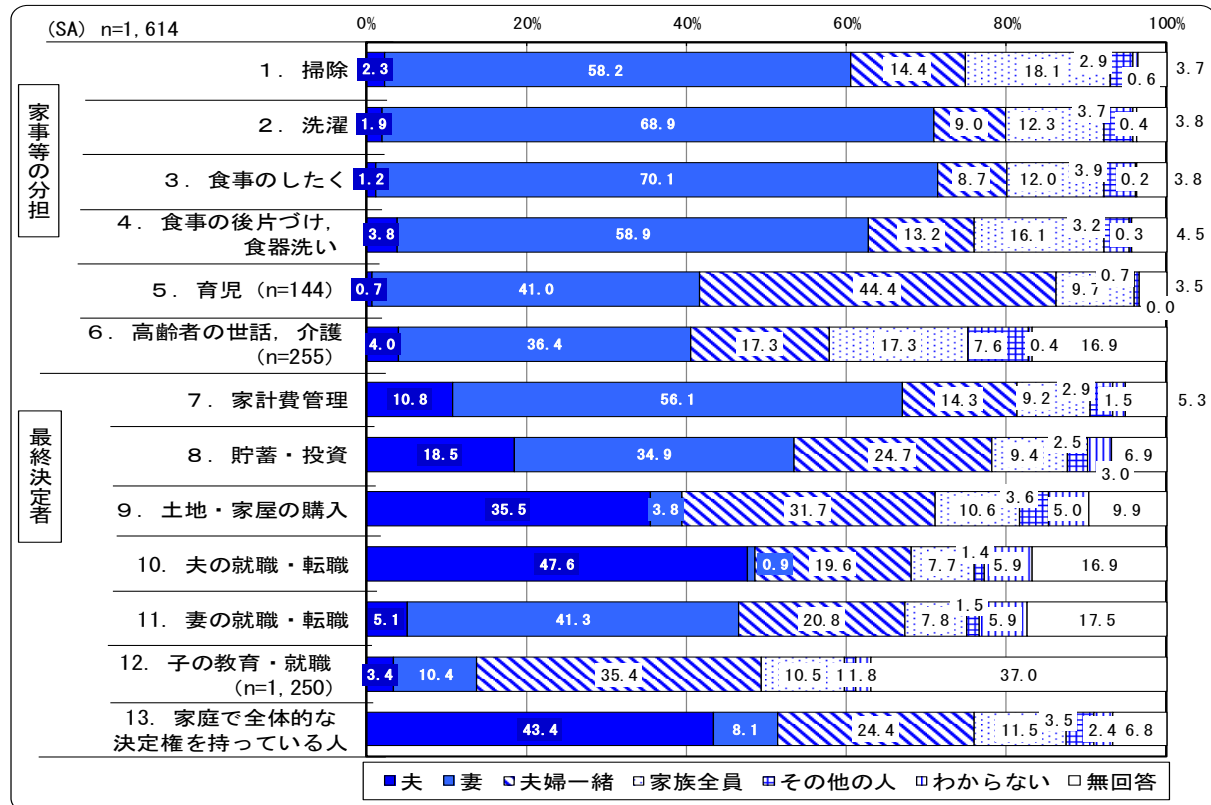


(3) 家事等の分担，最終決定者

問6 掃除や洗濯などの家事等を主に誰が分担していますか。また，家計費の管理等について最終的に決めているのは誰ですか。(それぞれについて該当する「1～6」に○を1つ)



■平成22年茨城県



■家事等の分担は「妻」、家庭で全体的な決定権を持っているのは「夫」となっており、固定的な性別役割分担が残っていることが考えられる

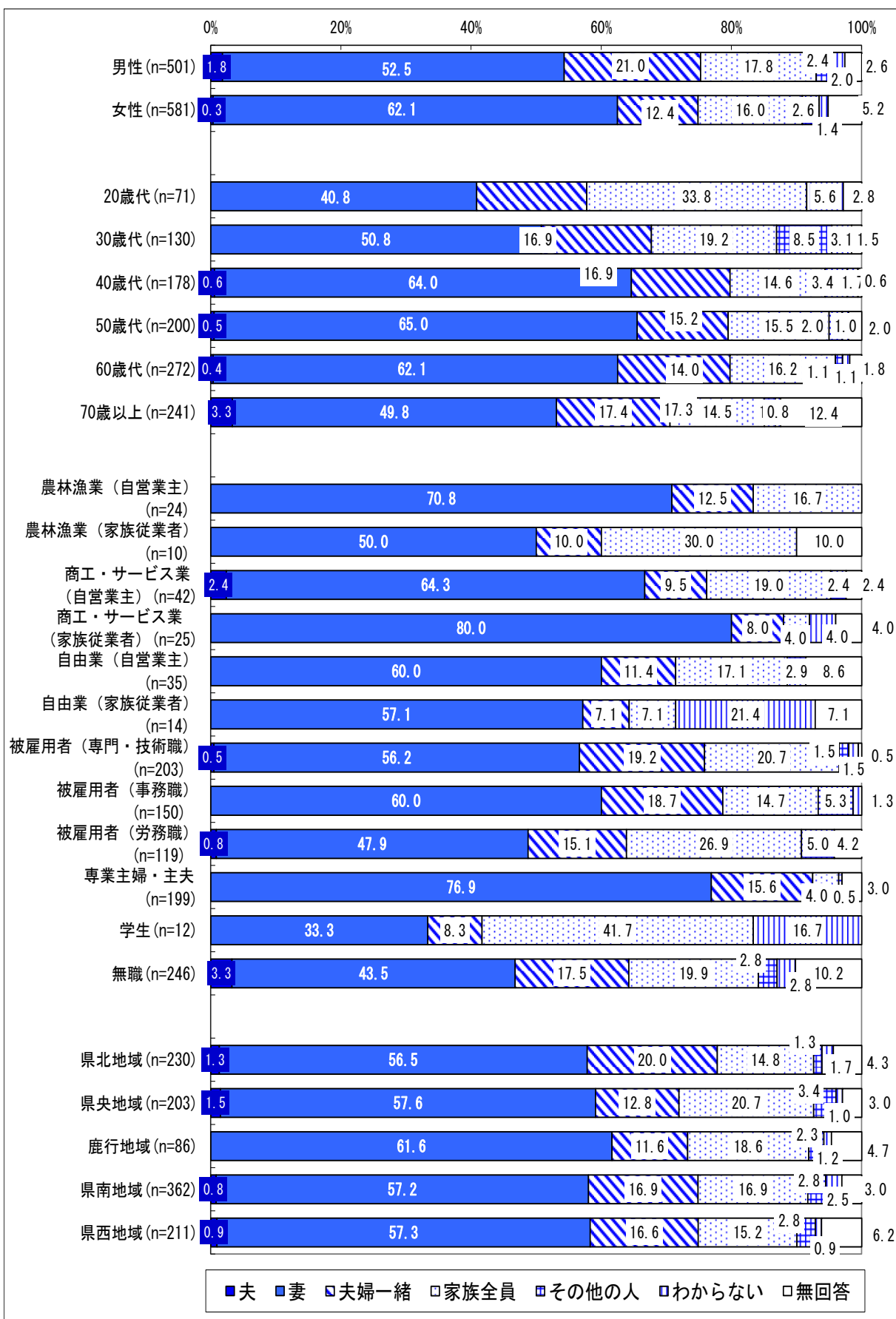
家事等の分担については、「妻」が多数を占めており、「掃除、洗濯、食事のしたくなど家事全般」は約6割（57.6%）、「育児」は5割以上（51.5%）となっている。

一方、最終決定者については、「夫」は「不動産等の購入」（31.5%）、「夫の就職・転職」（40.5%）が最も高くなっているが、「妻」は「家計費の管理」（48.4%）、「妻の就職・転職」（37.3%）が最も高くなっている。

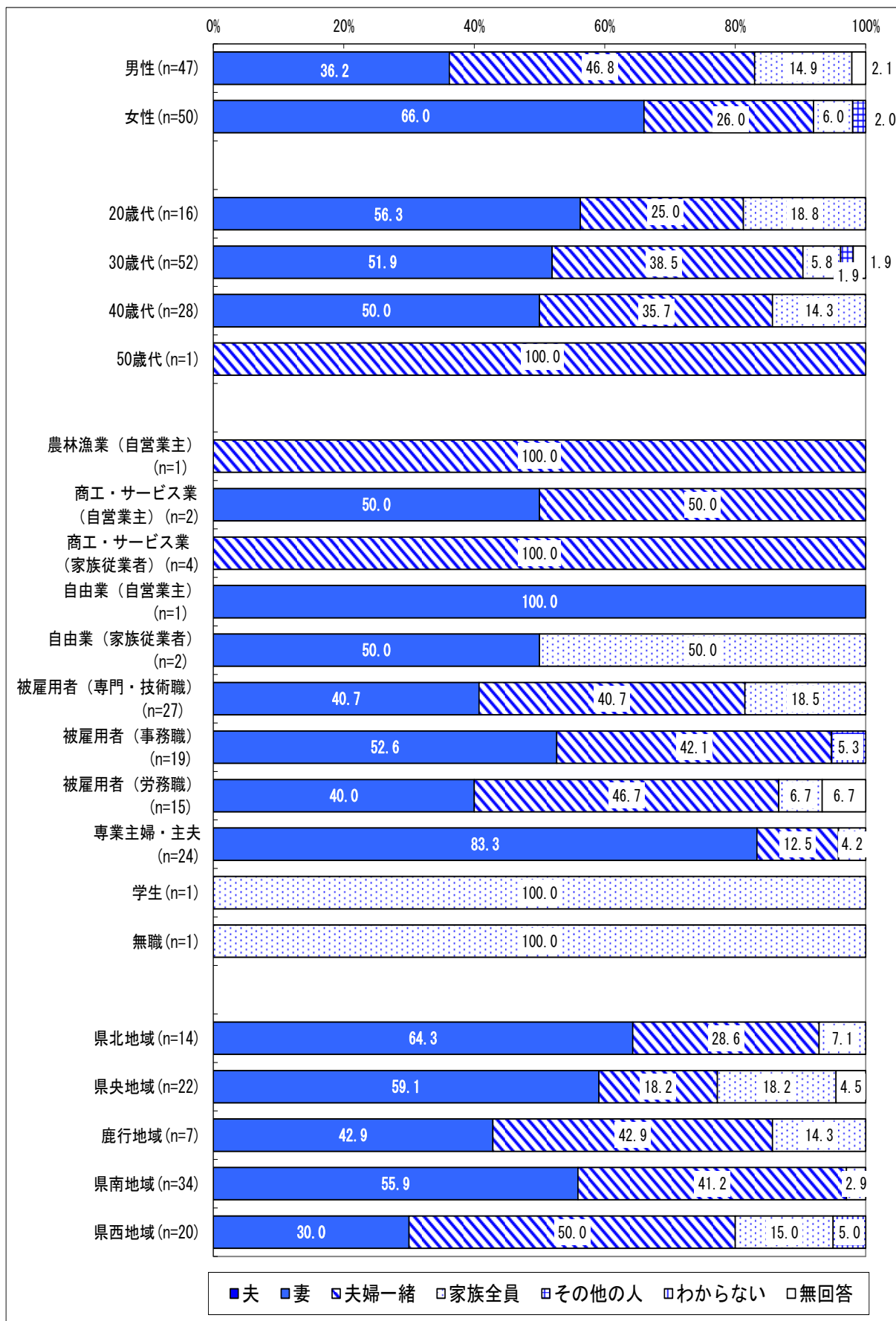
性別にみると、家事等の分担を「妻」と回答した割合は男女とも高く、年齢別にみると、30～60歳代で「妻」が家事等の分担をする割合が他の年代に比べて高くなっている。

■家事等の分担・最終決定者（各属性性別）

1. 掃除，洗濯，食事のしたくなど家事全般

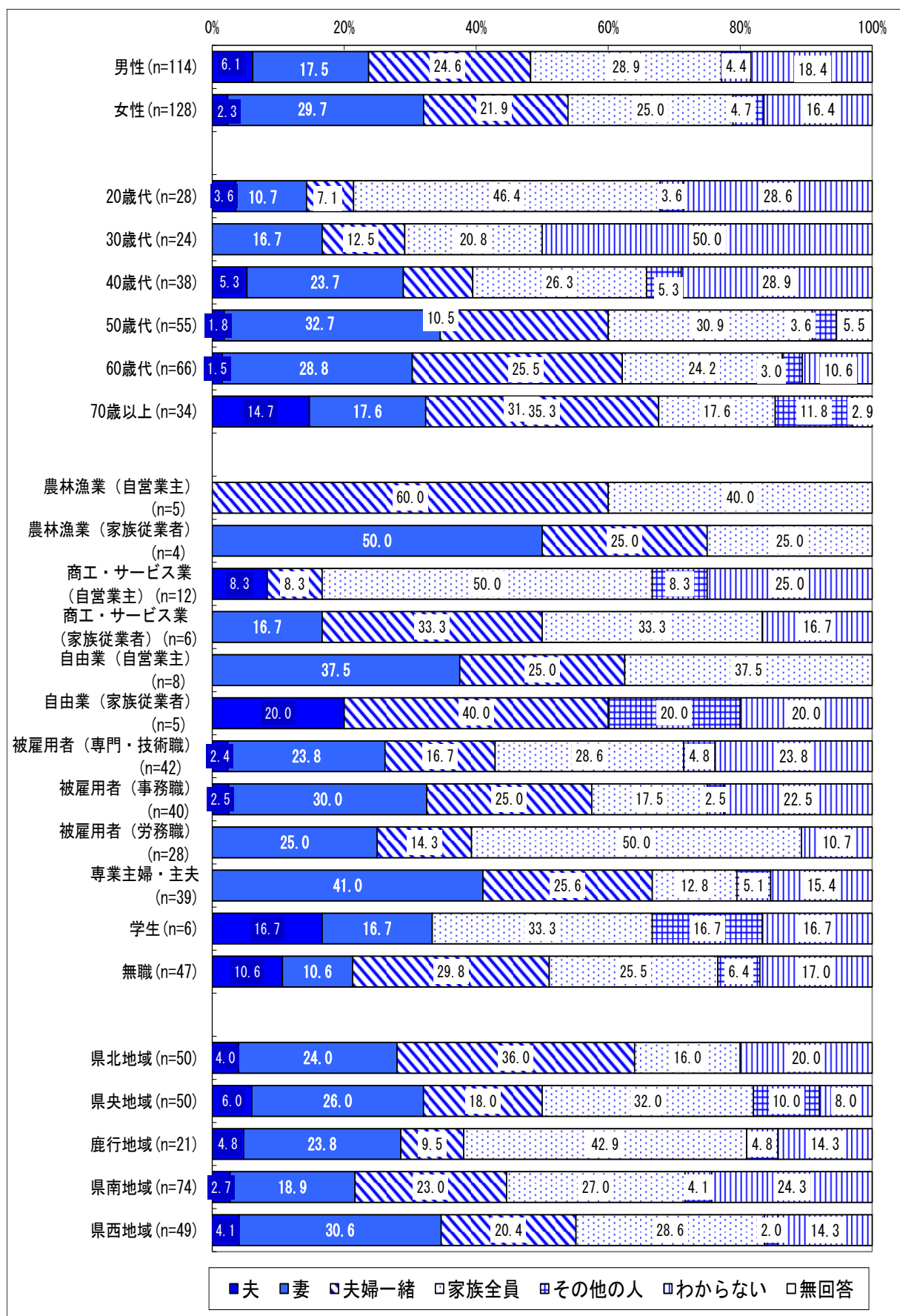


2. 育児

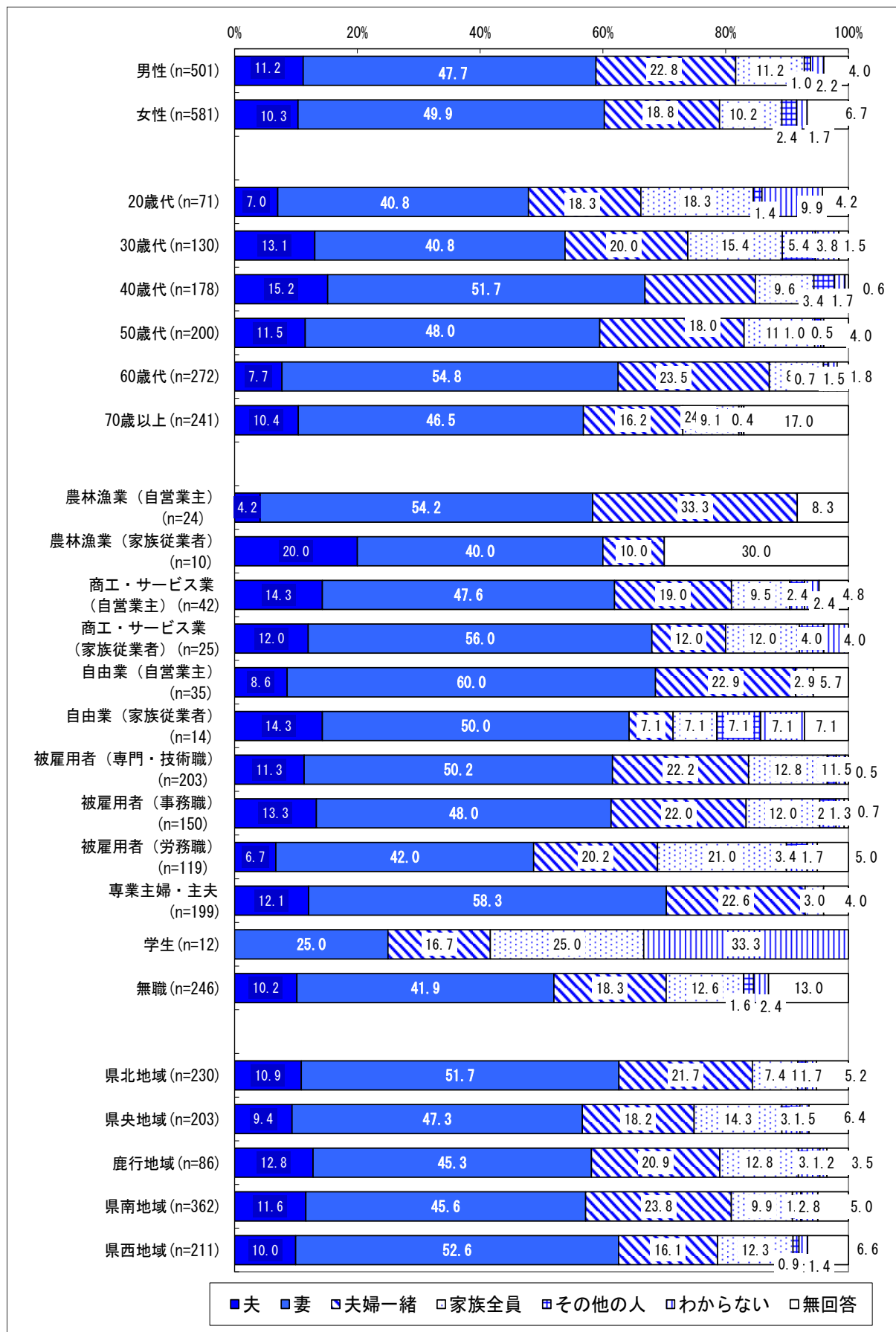


※60歳代・70歳以上・無職は、回答がなかったため、不掲載とする。

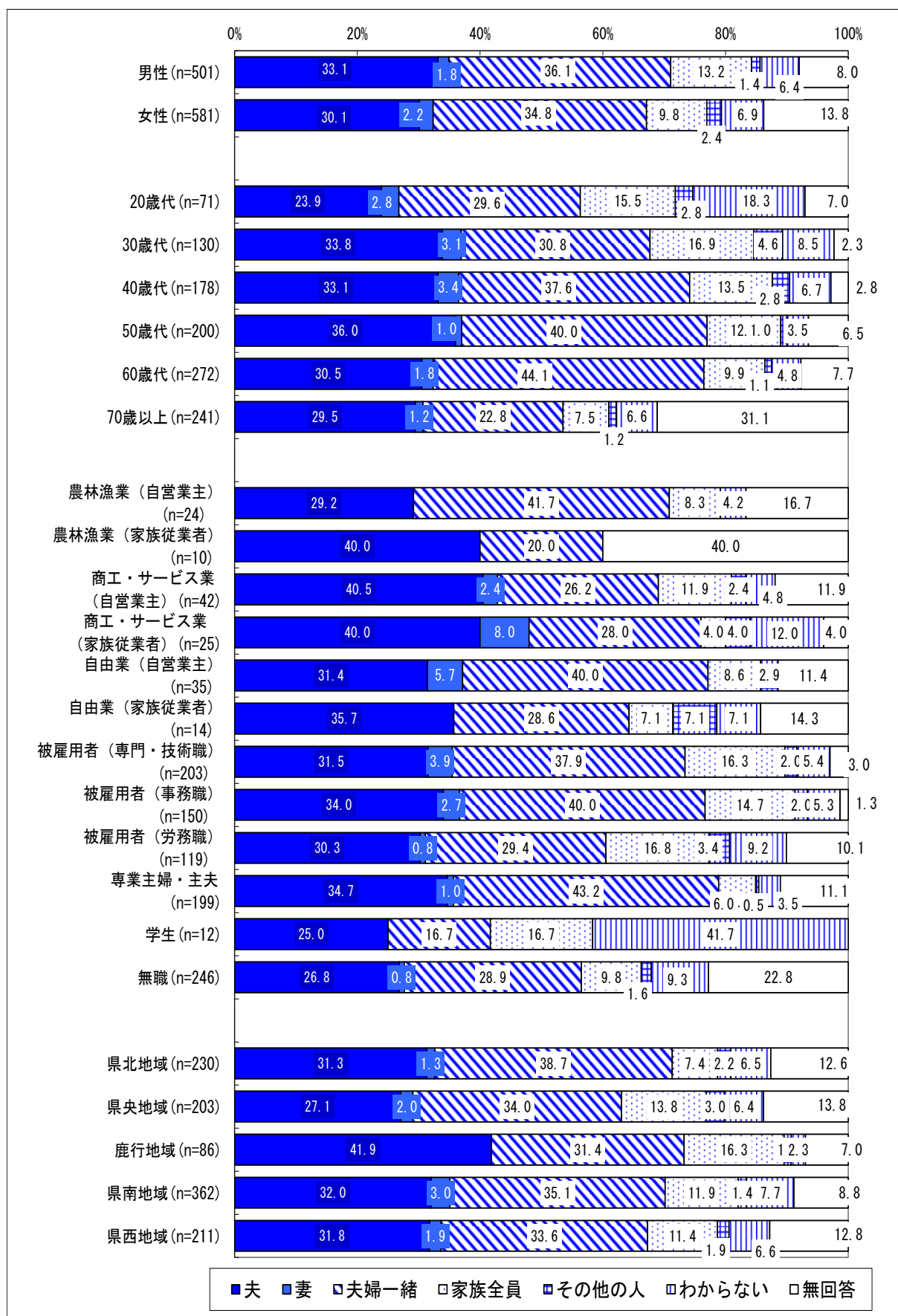
3. 高齢者の世話, 介護



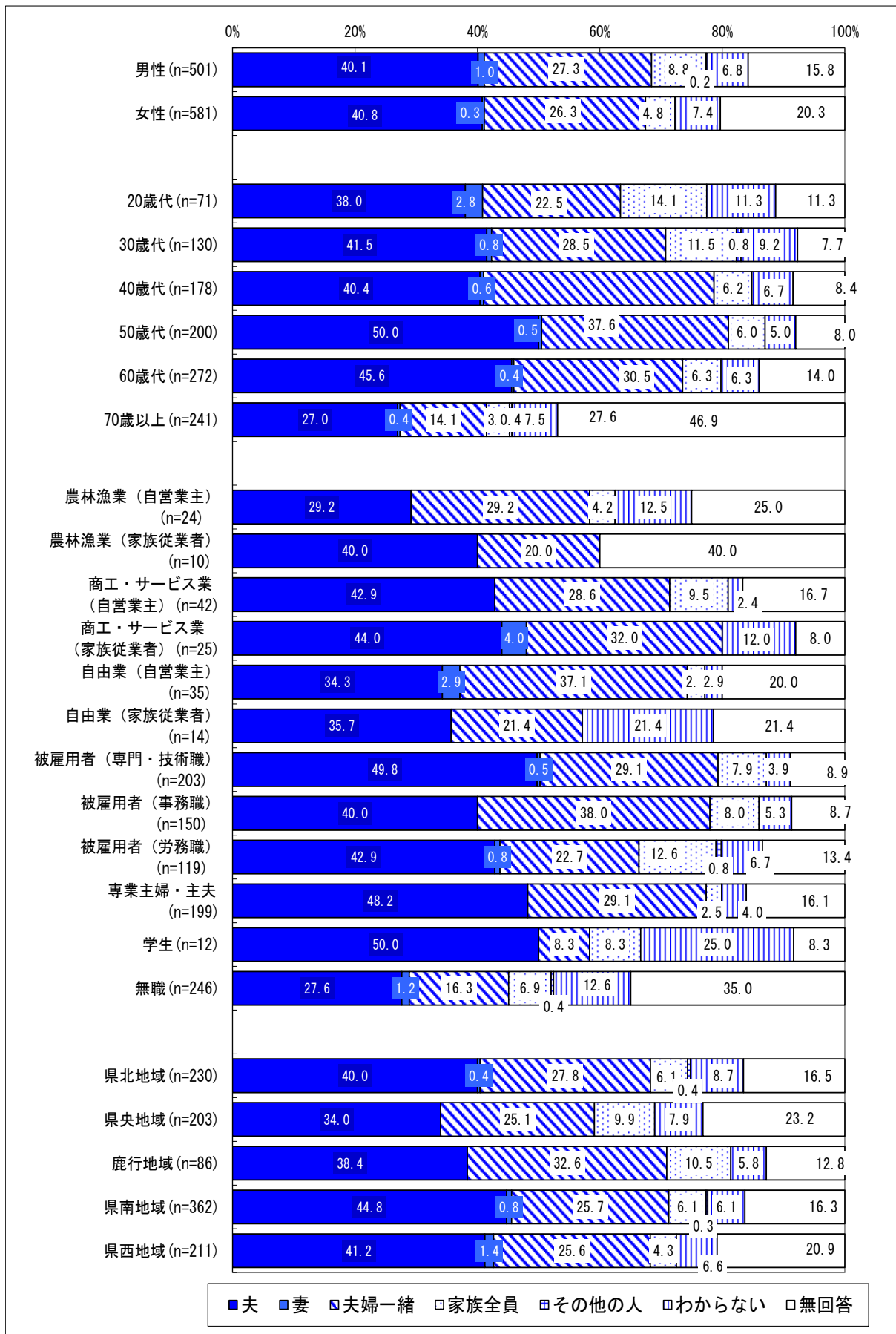
4. 家計費の管理



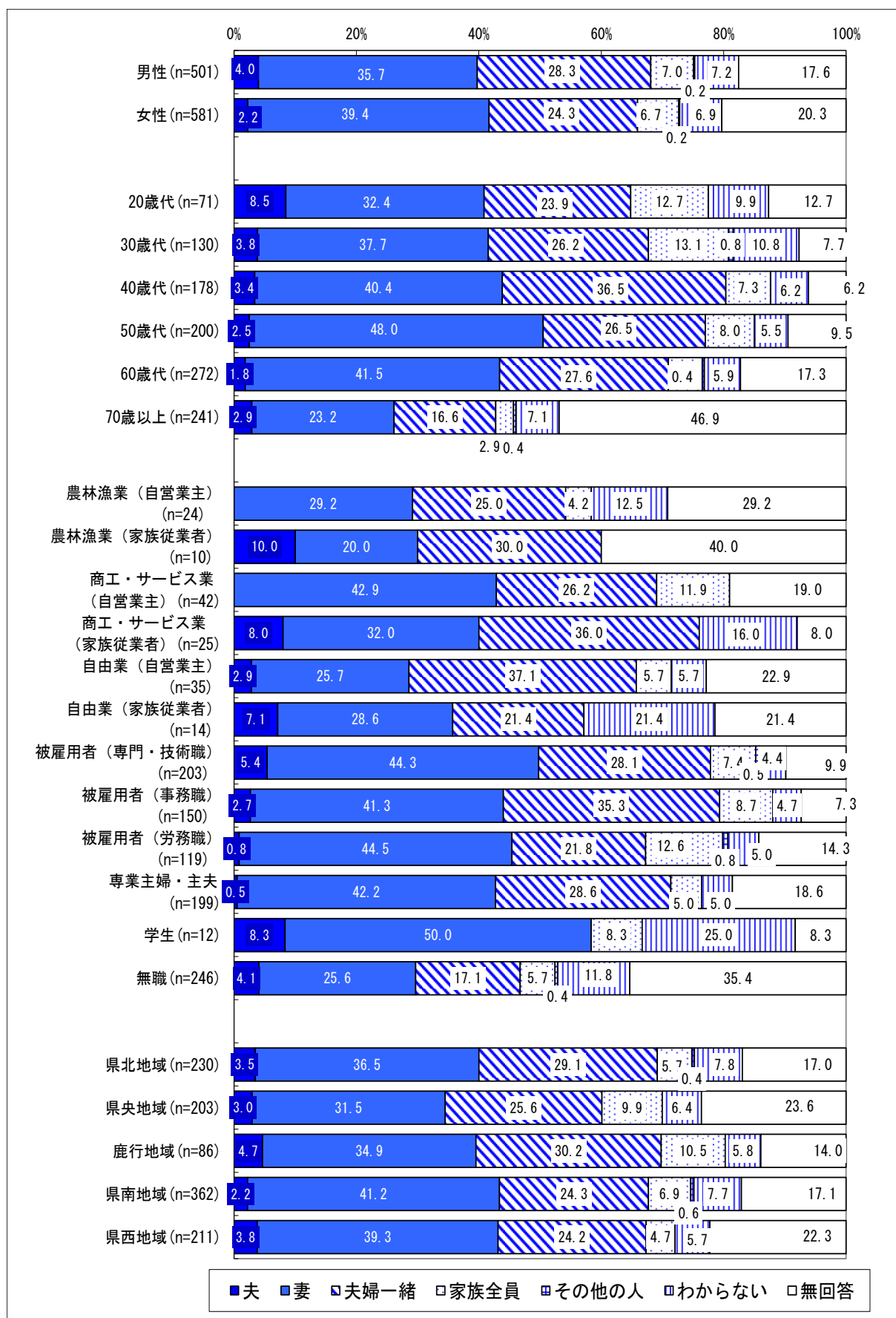
5. 不動産等の購入



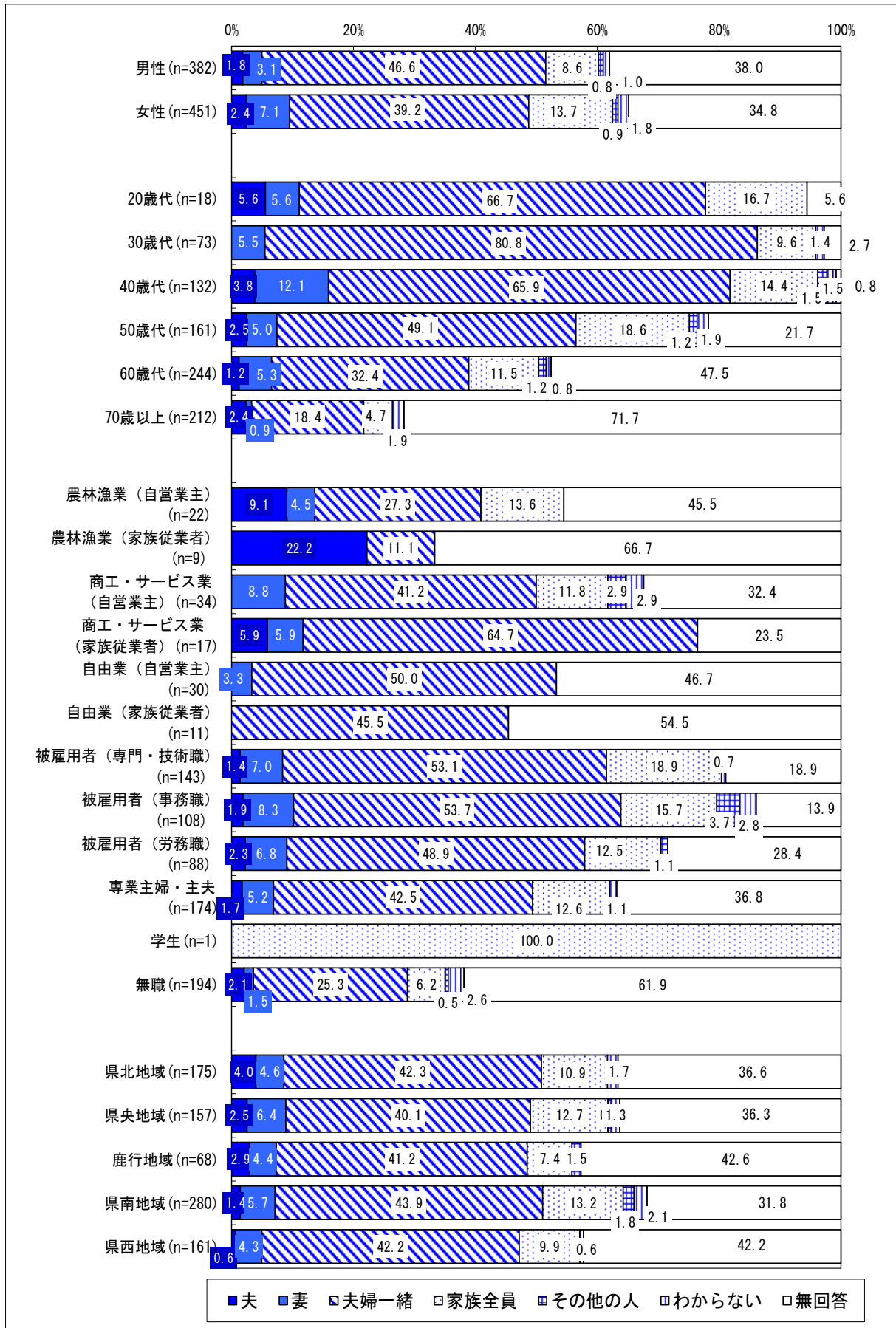
6. 夫の就職・転職



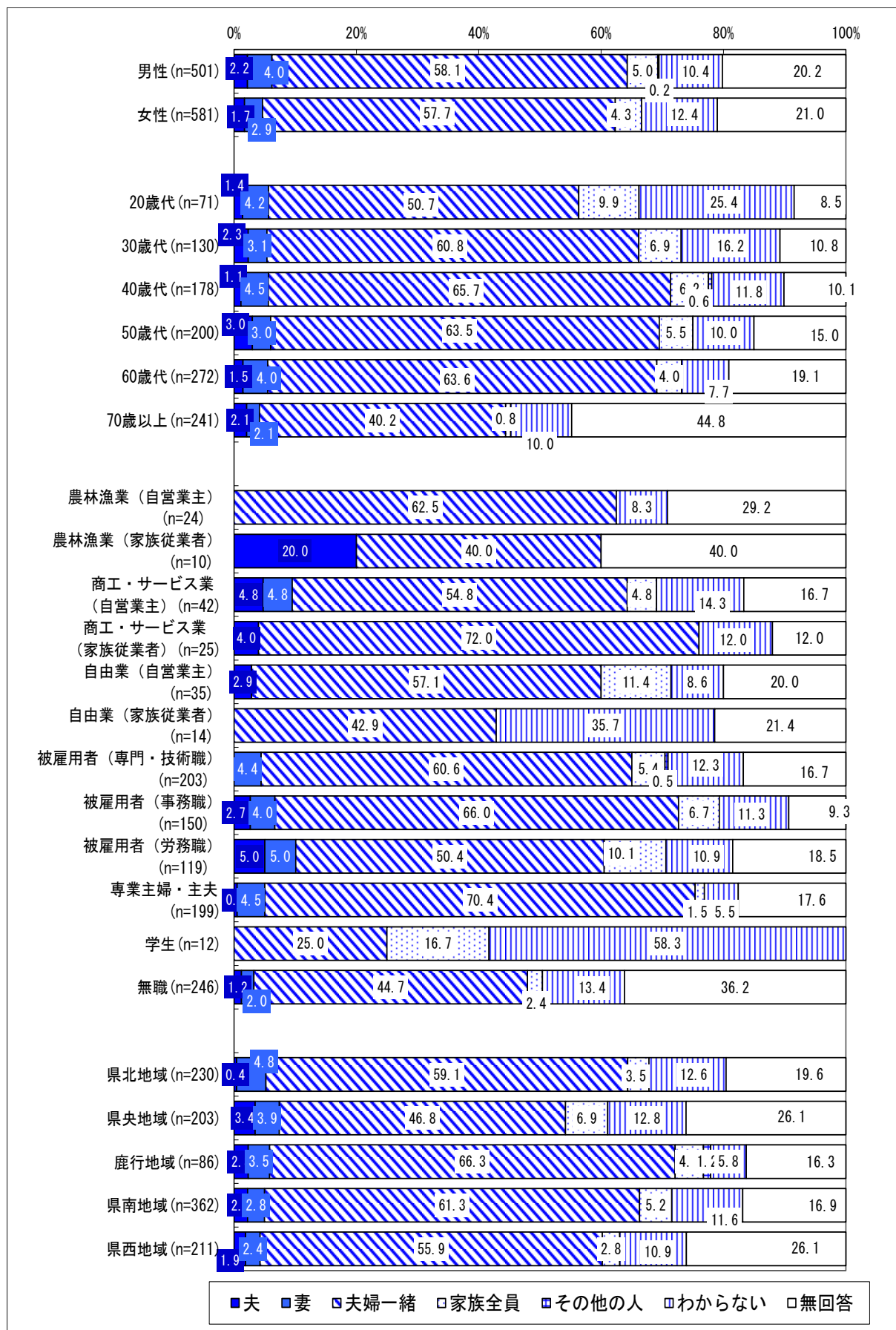
7. 妻の就職・転職



8. 子の教育・就職

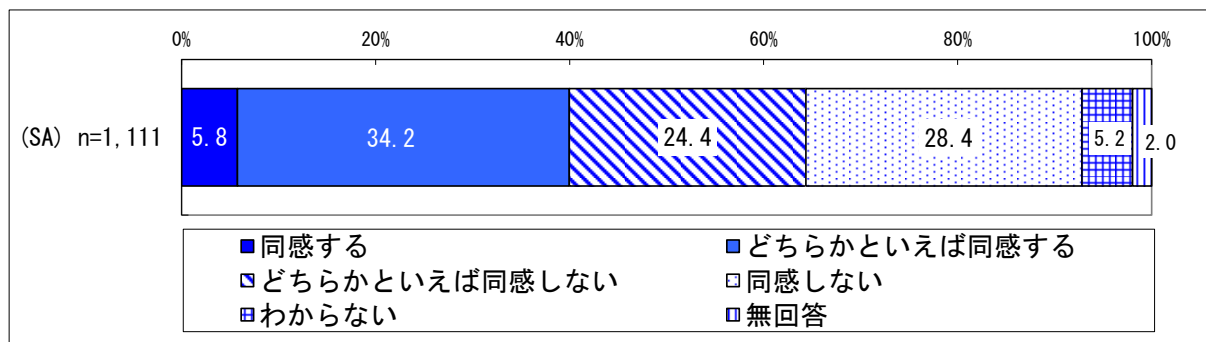


9. 子どもの数を決めるのは

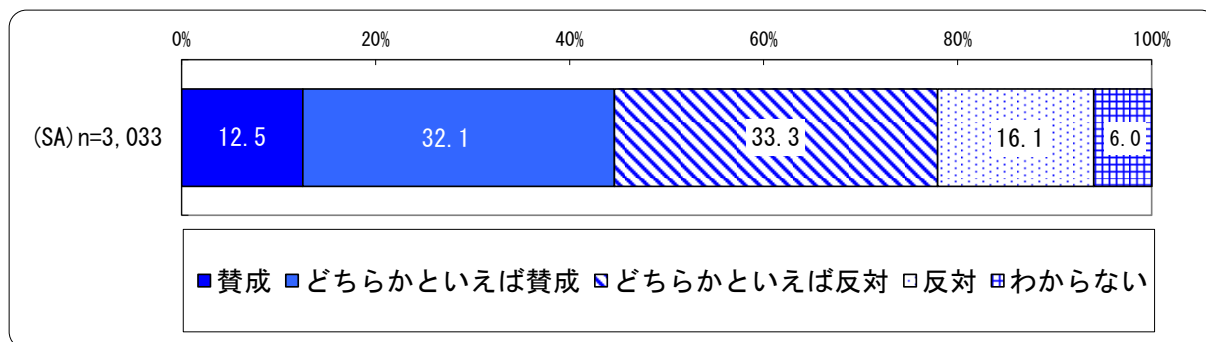


(4) 性別役割分担意識についての考え方

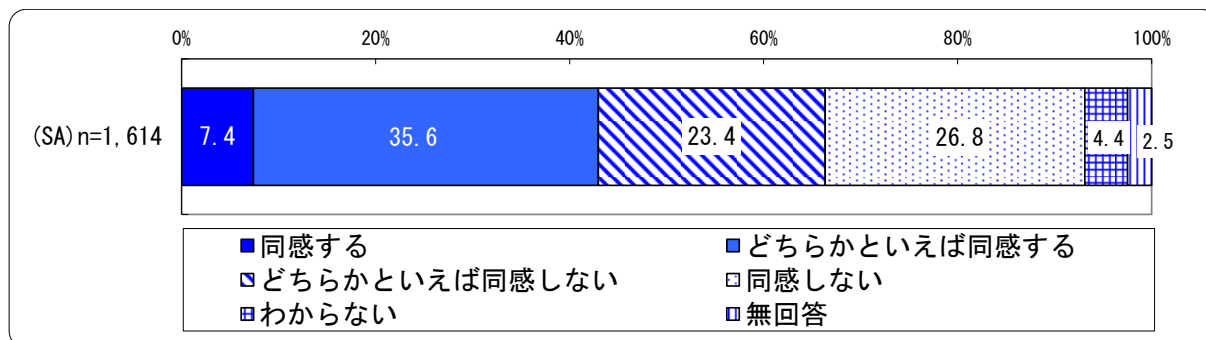
問7 「男性は仕事，女性は家庭」という考えがありますが，あなたはこの考えに同感しますか。(〇は1つ)



■平成26年全国



■平成22年茨城県



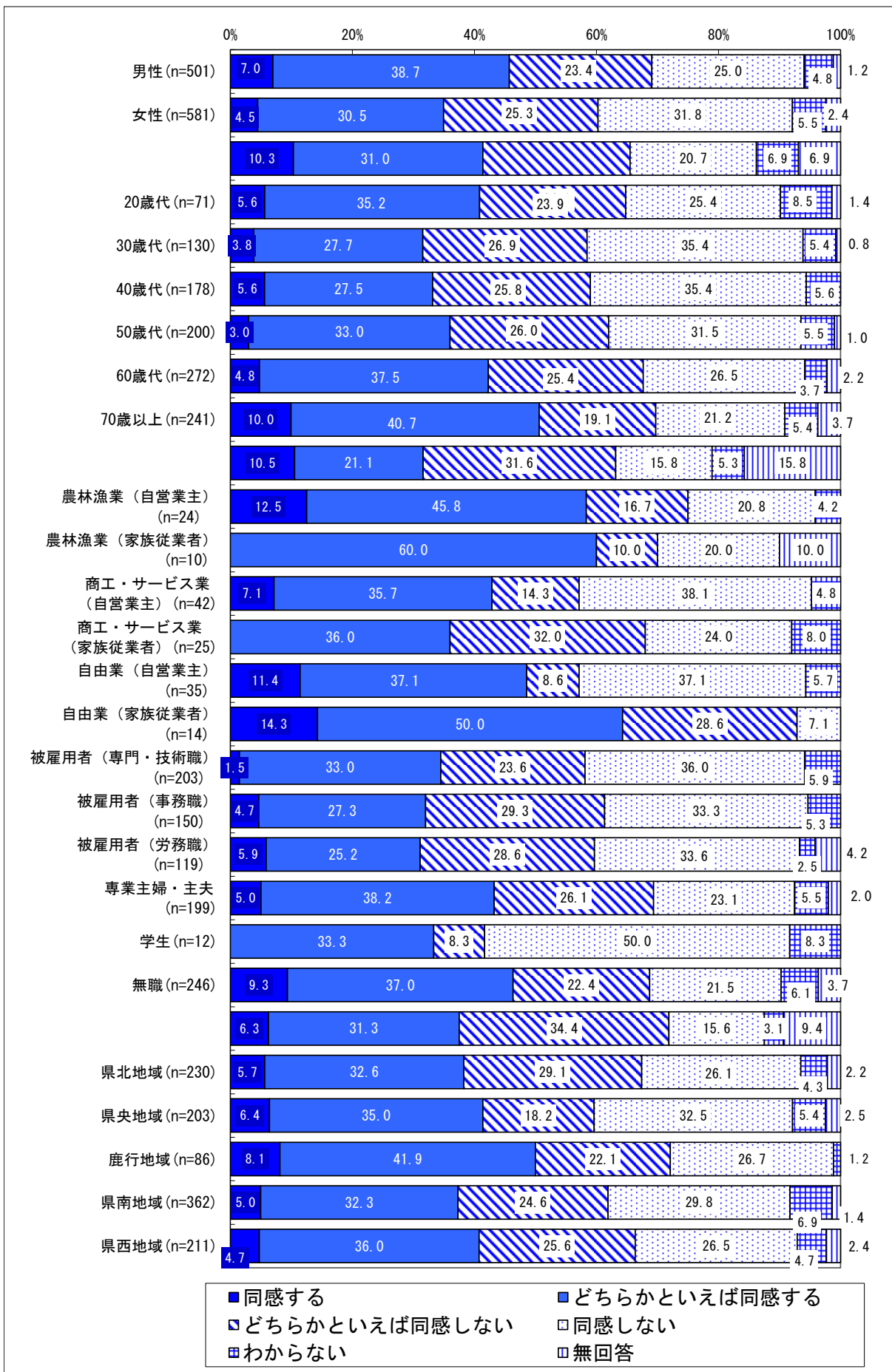
■「男性は仕事，女性は家庭」という考え方については、『同感しない』が『同感する』を若干上回っている

「男性は仕事，女性は家庭」という考え方については，「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」を合わせた『同感しない』が52.8%，「同感する」と「どちらかといえば同感する」を合わせた『同感する』が40.0%で，『同感しない』が12.8ポイント上回っている。

性別にみると，男性は『同感する』が45.7%，女性は『同感しない』が57.1%と高くなっている。

年齢別にみると，年齢が高くなるにつれて『同感する』の割合が高くなる傾向となっている。

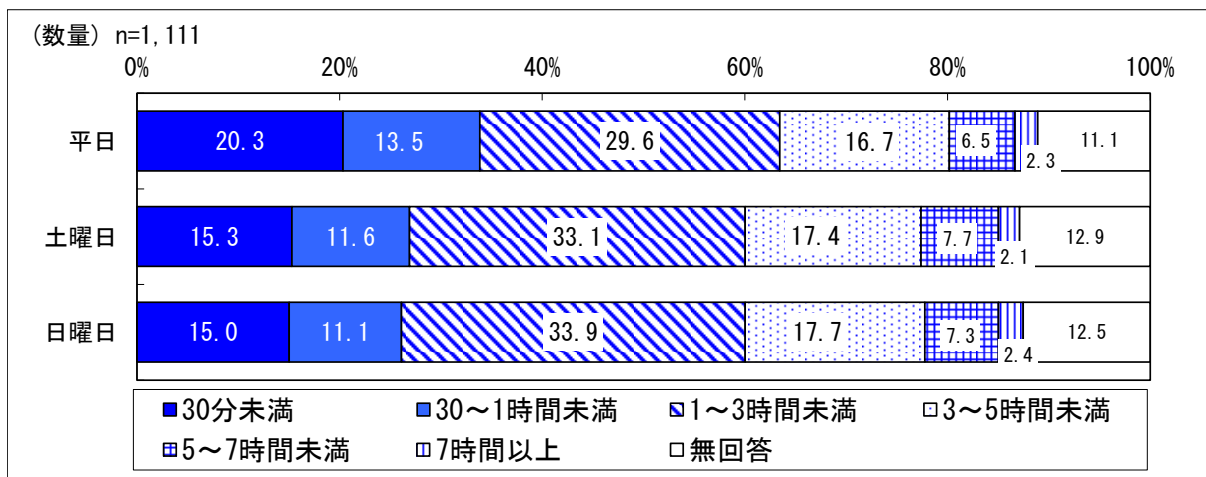
■性別役割分担意識についての考え方（各属性別）



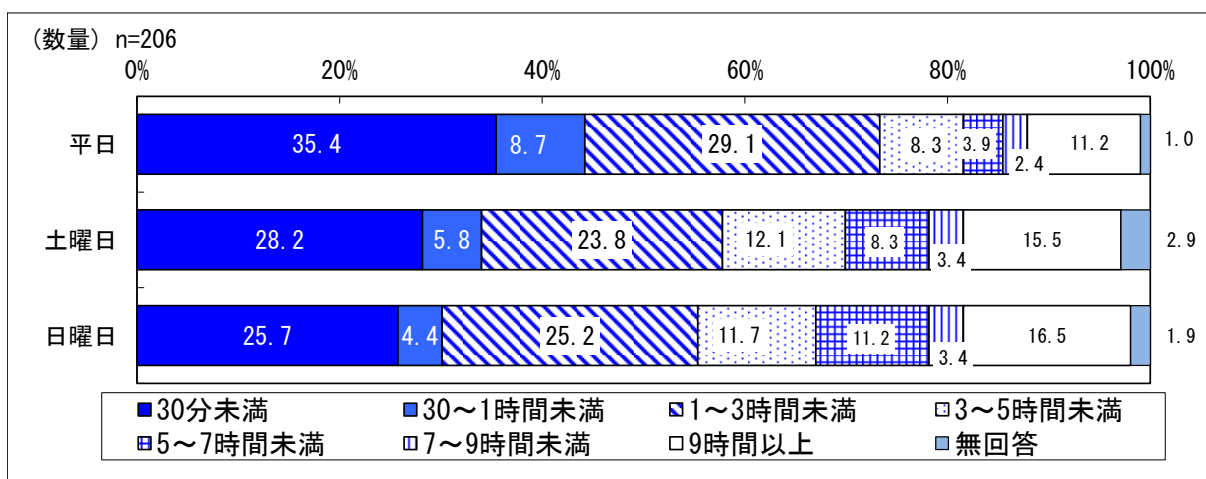
(5) 家事・育児・介護等に携わる時間

問8 次にあげるア～ウについて、あなたはどれくらい時間をかけていますか。平日（月曜日～金曜日）、土曜日、日曜日それぞれの1日あたり平均時間をご記入ください。

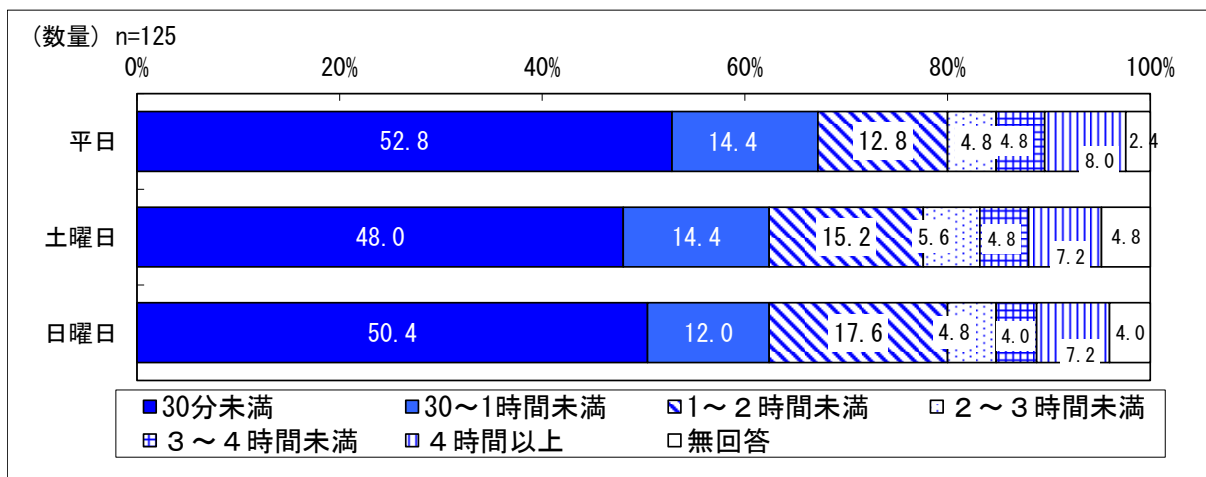
《ア 家事》



《イ 育児》

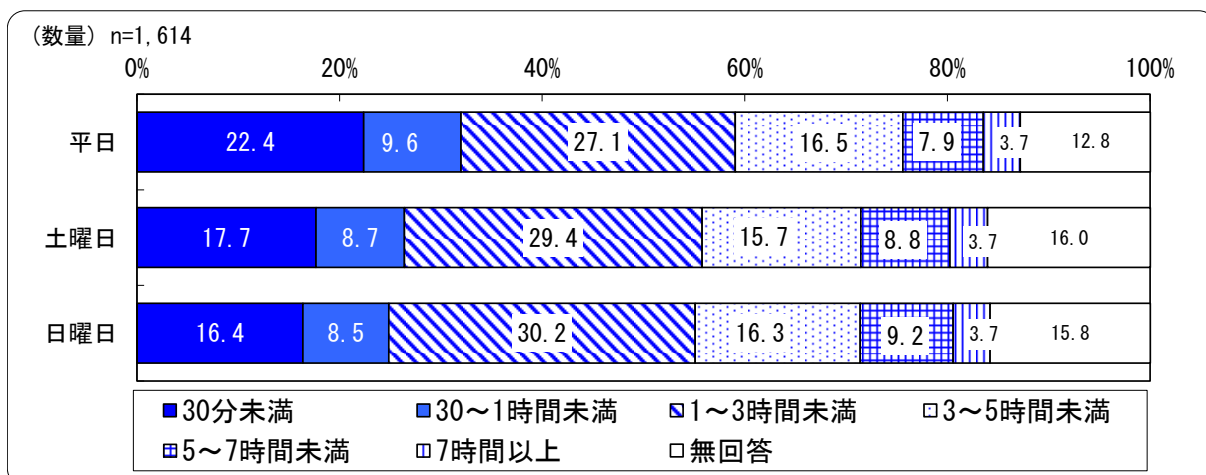


《ウ 介護・看護》

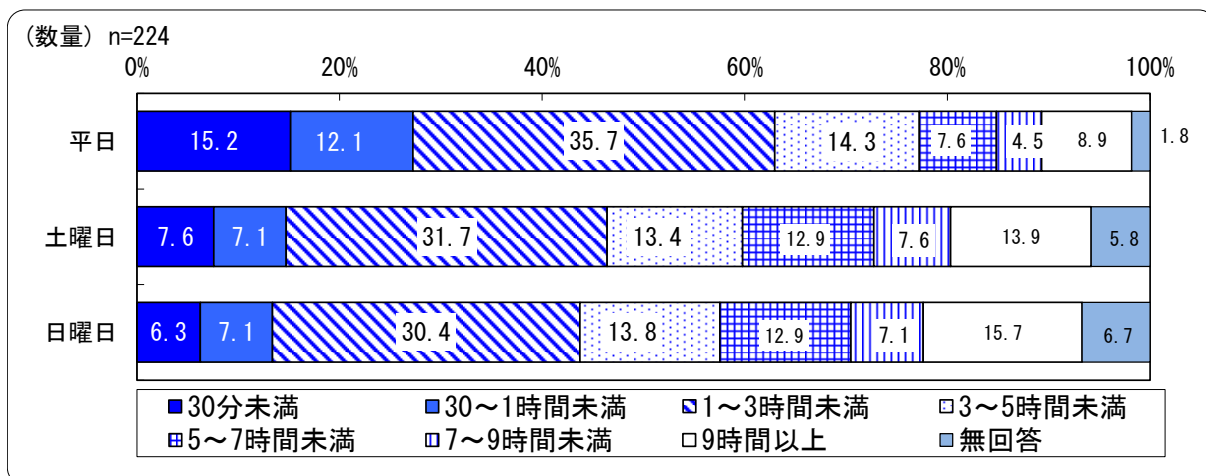


■平成 22 年茨城県

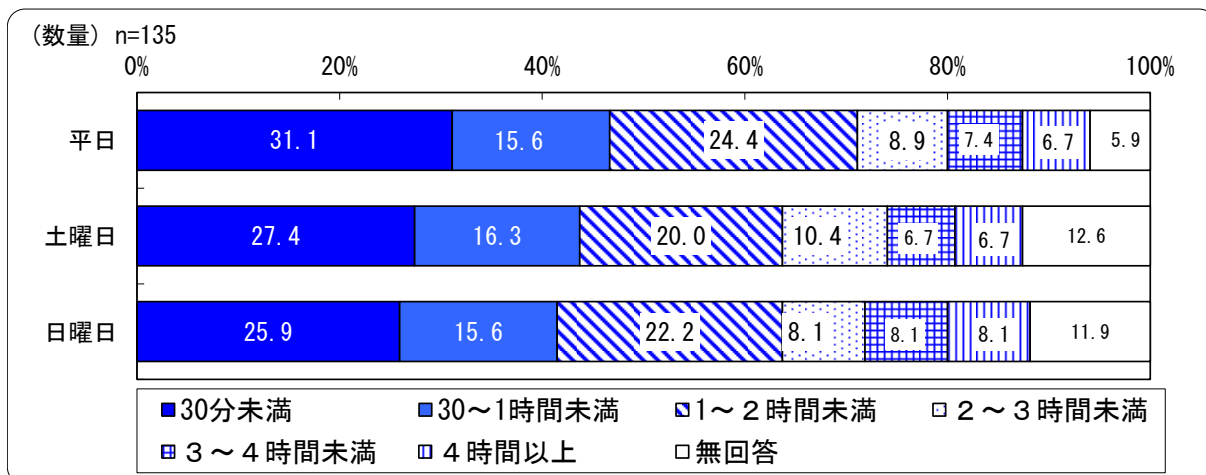
≪ア 家事≫



≪イ 育児≫



≪ウ 介護・看護≫



■家事・育児・介護等に携わる時間は総じて女性が男性を上回っている

家事に携わる時間については、平日・土曜日・日曜日すべてで「1～3時間未満」（平日：29.6%，土曜日：33.1%，日曜日：33.9%）が最も高く、次いで「30分未満」（平日：20.3%，土曜日：15.3%，日曜日：15.0%）と「3～5時間未満」（平日：16.7%，土曜日：17.4%，日曜日：17.7%）が同程度となっている。

性別にみると、男性は平日が「30分未満」(38.9%)、土曜日と日曜日は「1～3時間未満」(土曜日：32.9%、日曜日：35.3%)が最も高くなっているが、女性は「1～3時間未満」(平日：33.9%、土曜日：33.4%、日曜日：32.7%)が最も高くなっており、男女で家事に携わる時間に差があることがわかる。

年齢別にみると、年齢が下がるにつれて、「30分未満」の割合が高くなる傾向にある。

育児に携わる時間については、平日・土曜日・日曜日すべてで「30分未満」(平日：35.4%、土曜日：28.2%、日曜日：25.7%)が最も高く、次いで「1～3時間未満」(平日：29.1%、土曜日：23.8%、日曜日：25.2%)となっている。

性別にみると、平日では男性は「30分未満」(54.3%)、女性は「1～3時間未満」(31.2%)が最も高くなっている。土曜日・日曜日は、男性は3時間未満が7割以上(土曜日：77.2%、日曜日：71.7%)、女性は3時間以上が5割以上(土曜日：56.0%、日曜日：56.8%)を占めている。

年齢別にみると、20歳代で「9時間以上」が平日・土曜日・日曜日に4割以上(平日：45.5%、土曜日：45.5%、日曜日：40.9%)を占め、他の年齢層に比べて高くなっている。

介護・看護に携わる時間については、平日・土曜日・日曜日全てで「30分未満」(平日：31.1%、土曜日：27.4%、日曜日：25.9%)が最も高く、次いで「1～2時間未満」(平日：24.4%、土曜日：20.0%、日曜日：22.2%)となっている。

性別にみても、どの曜日でも「30分未満」が男性(平日：60.3%、土曜日：50.8%、日曜日：55.6%)も女性(平日：45.0%、土曜日：45.0%、日曜日：45.0%)も最も高くなっている。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれ介護時間が長くなる傾向にある。

■家事・育児・介護等に携わる時間(平均時間)

ア 家事 (単位：分)

	平日	土曜日	日曜日	週全体
全体	113.52	122.42	123.56	119.83
男性	42.25	56.45	58.47	52.39
女性	175.54	180.02	180.43	178.66

ウ 介護 (単位：分)

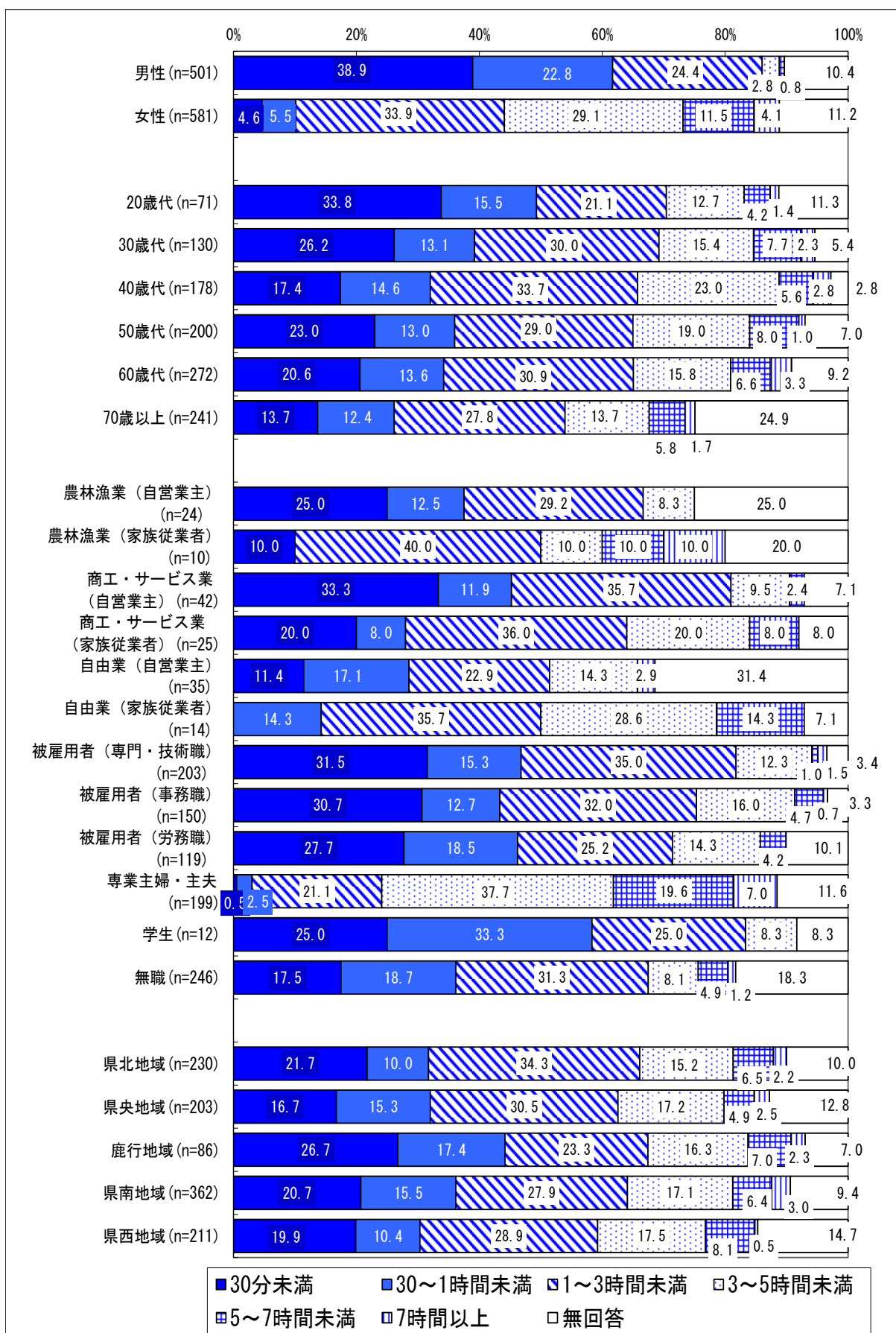
	平日	土曜日	日曜日	週全体
全体	58.05	58.98	66.63	61.22
男性	30.00	35.16	56.75	40.63
女性	87.50	84.00	77.00	82.83

イ 育児 (単位：分)

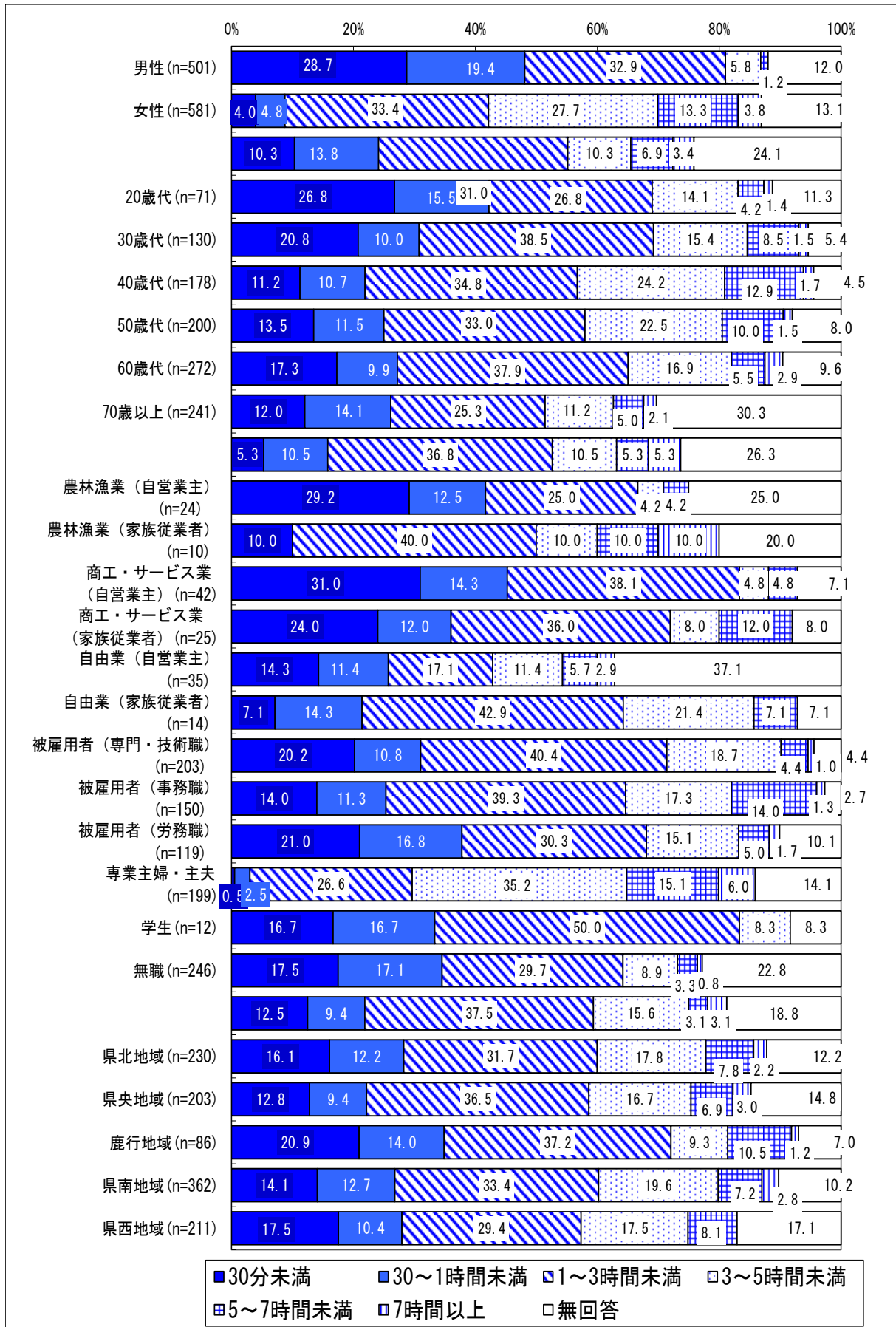
	平日	土曜日	日曜日	週全体
全体	170.47	234.23	250.04	218.25
男性	31.41	85.98	113.37	76.92
女性	287.84	359.36	365.39	337.53

《ア 家事》

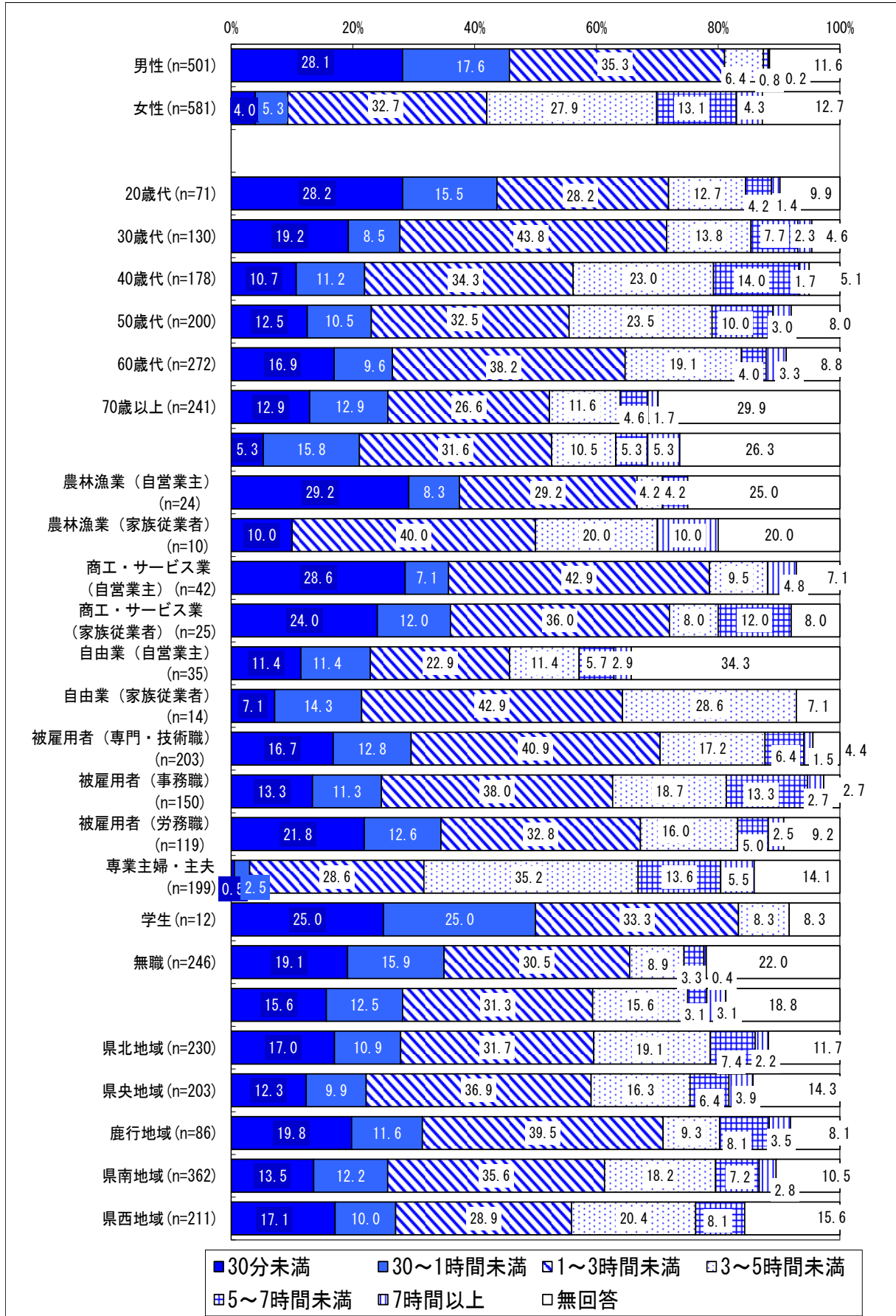
【平日】



【土曜日】

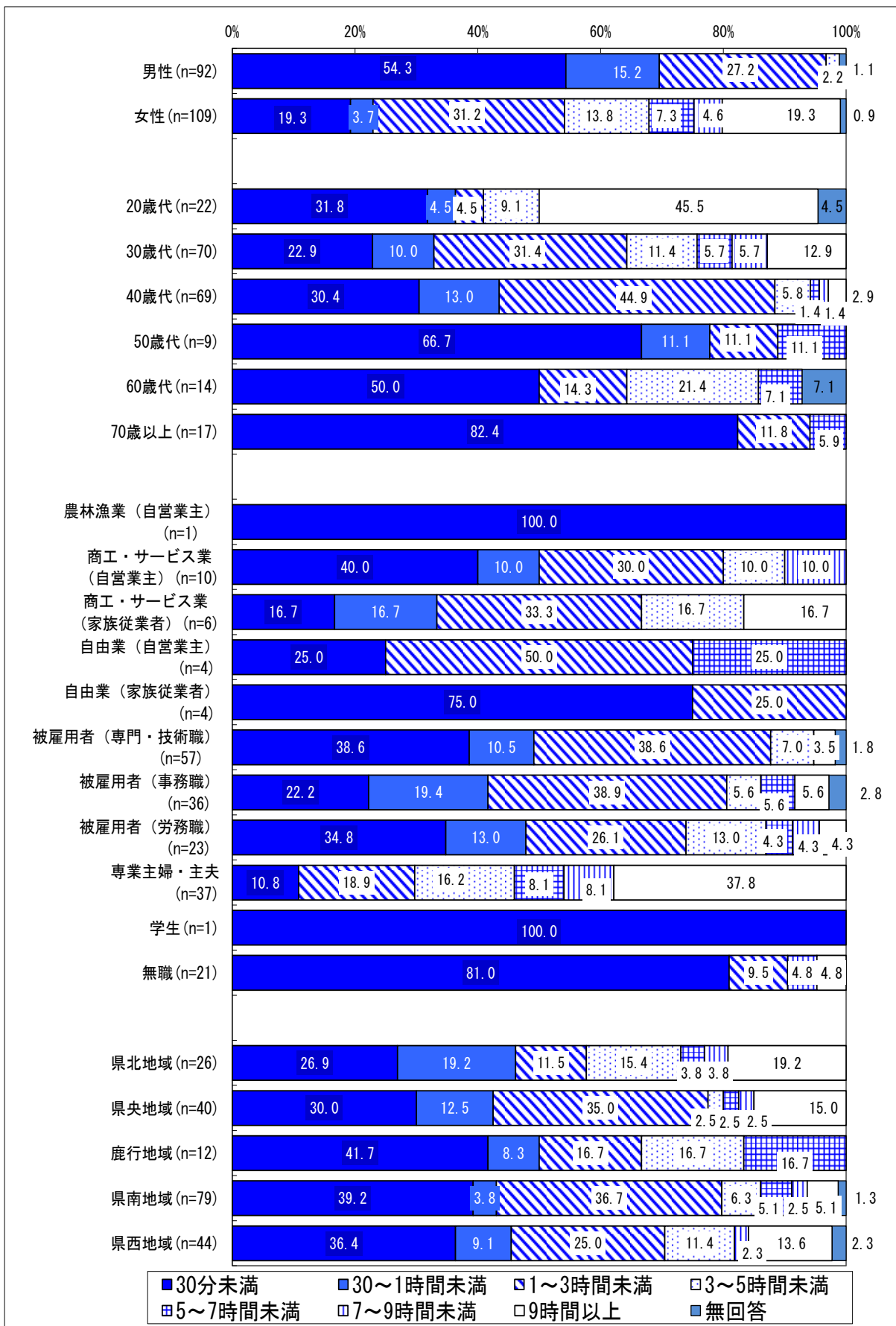


【日曜日】

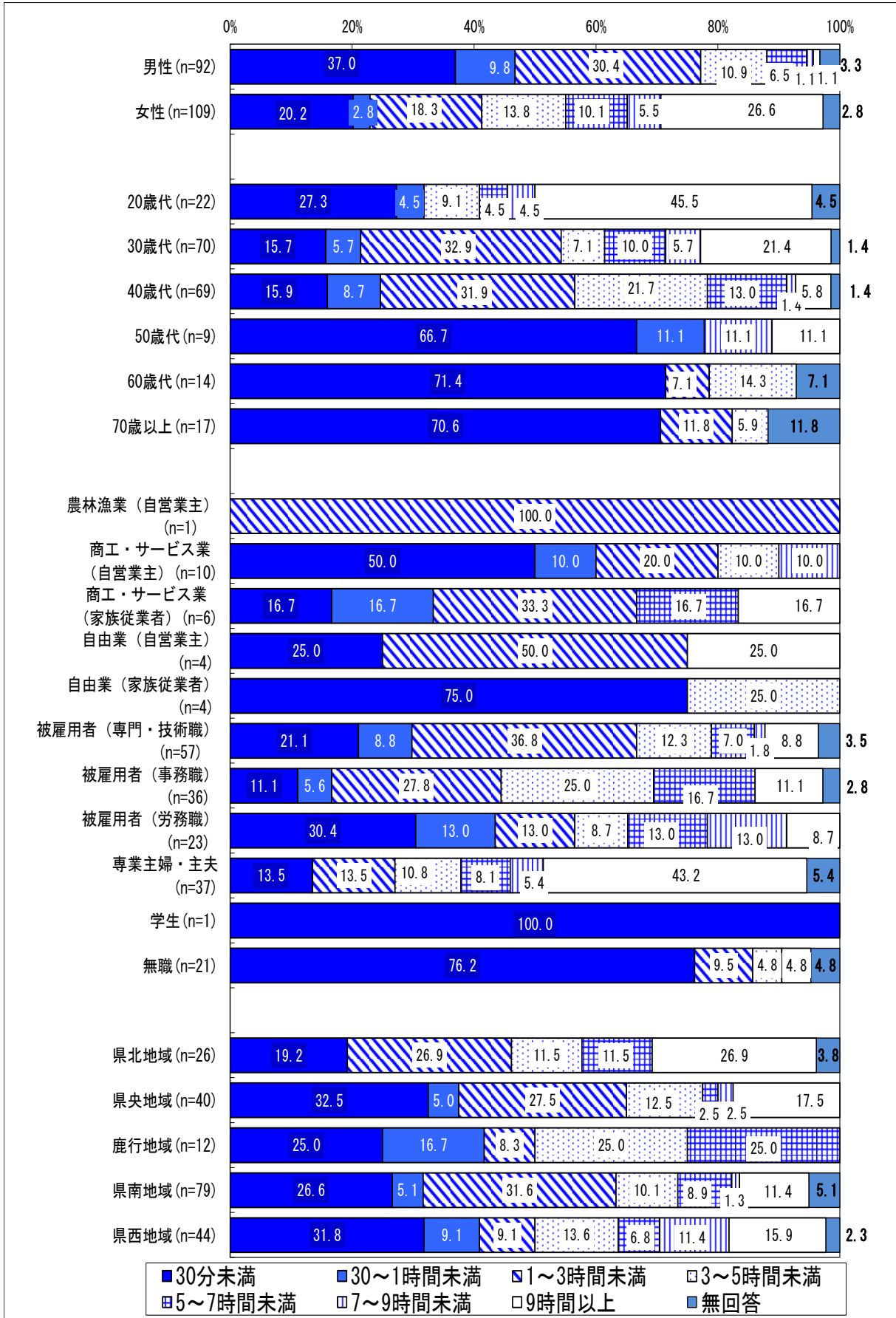


《イ 育児》

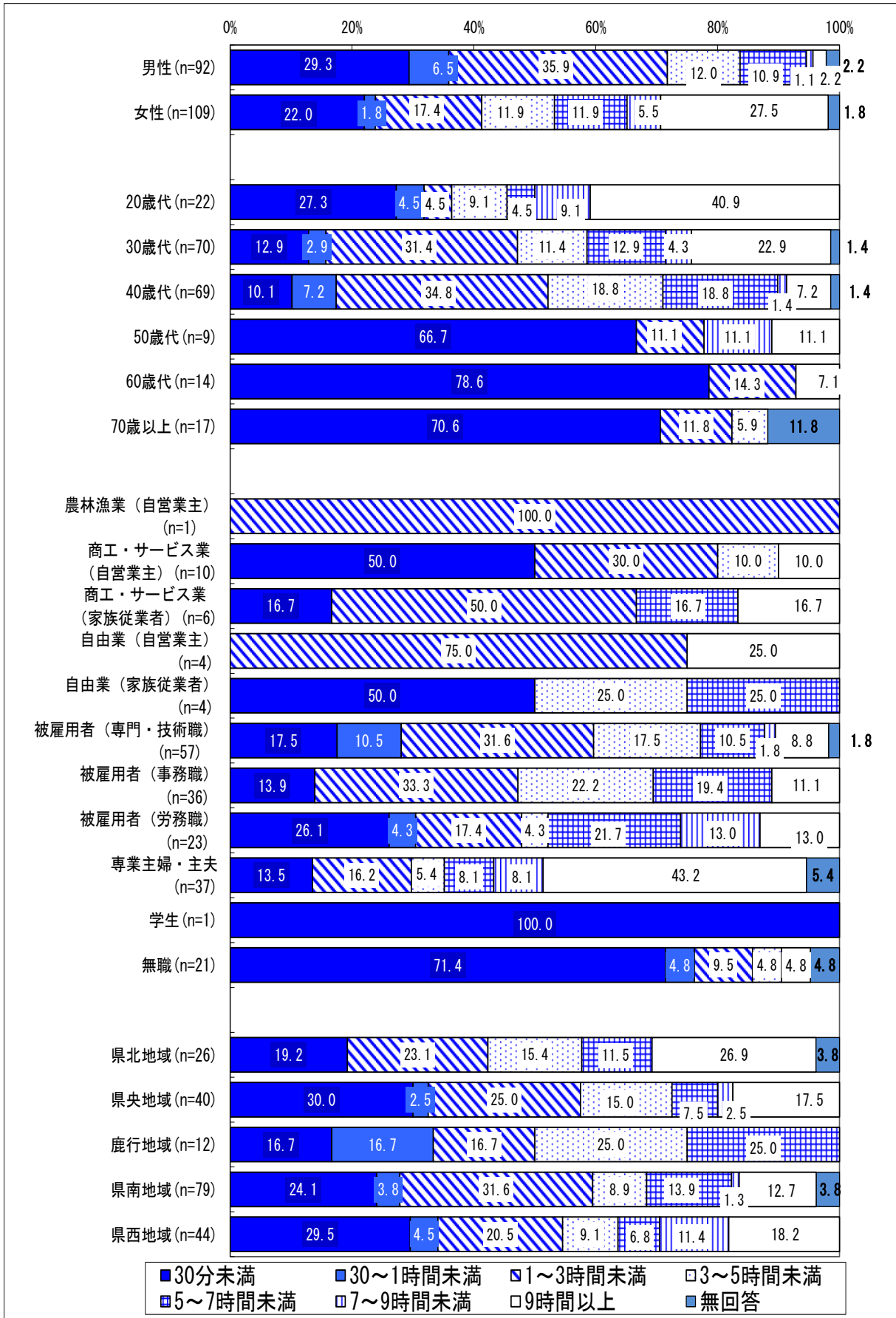
【平日】



【土曜日】

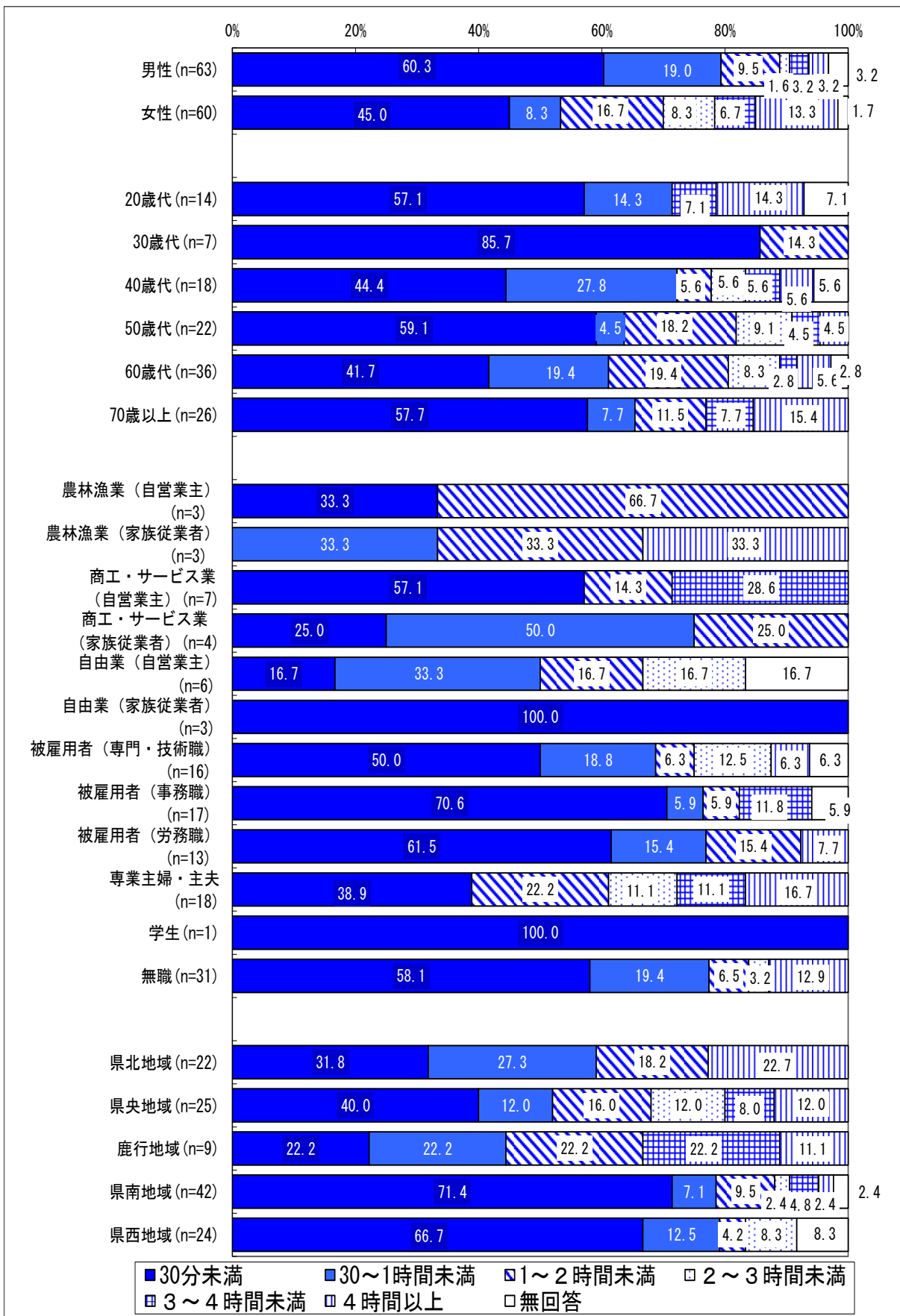


【日曜日】

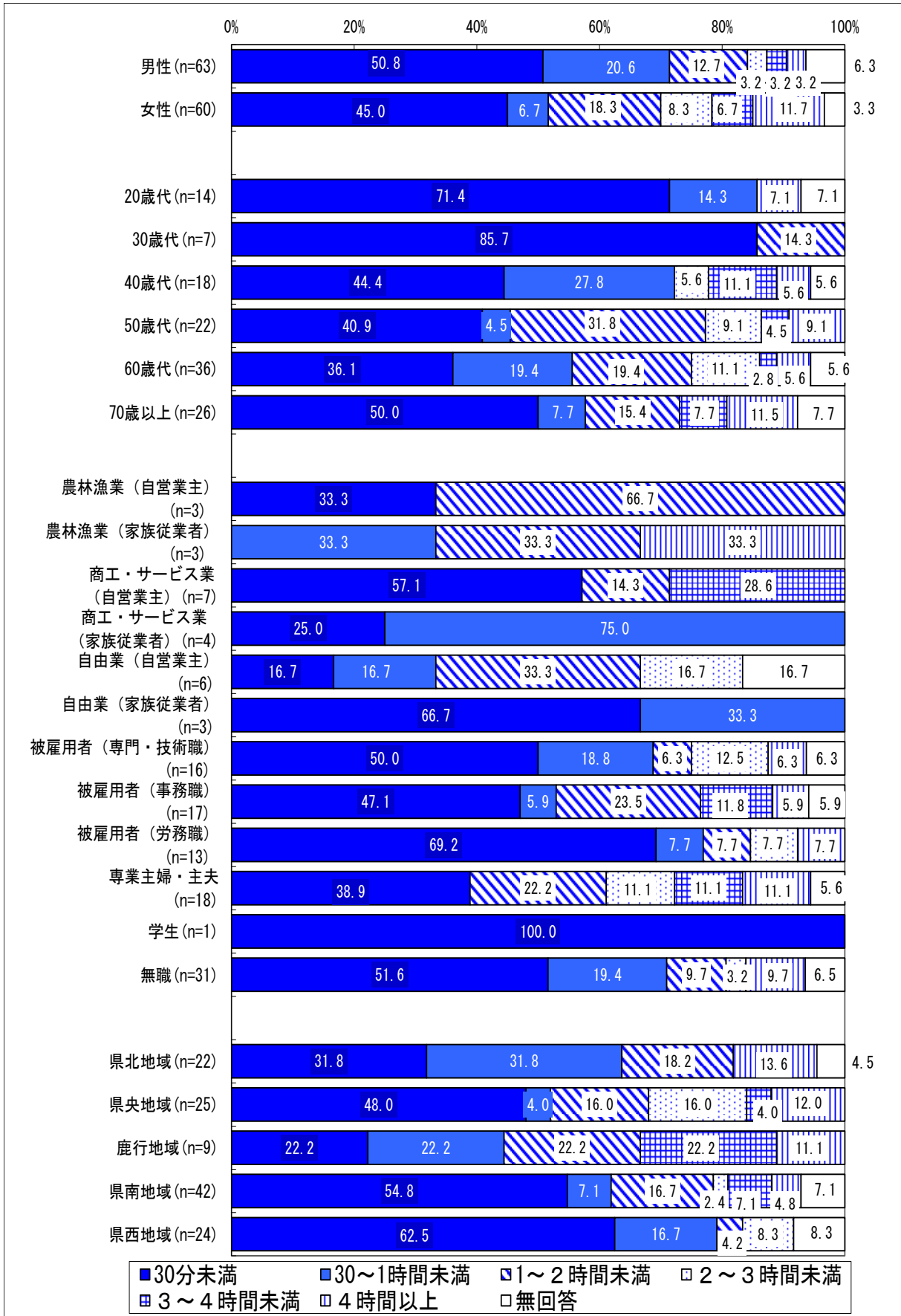


《ウ 介護・看護》

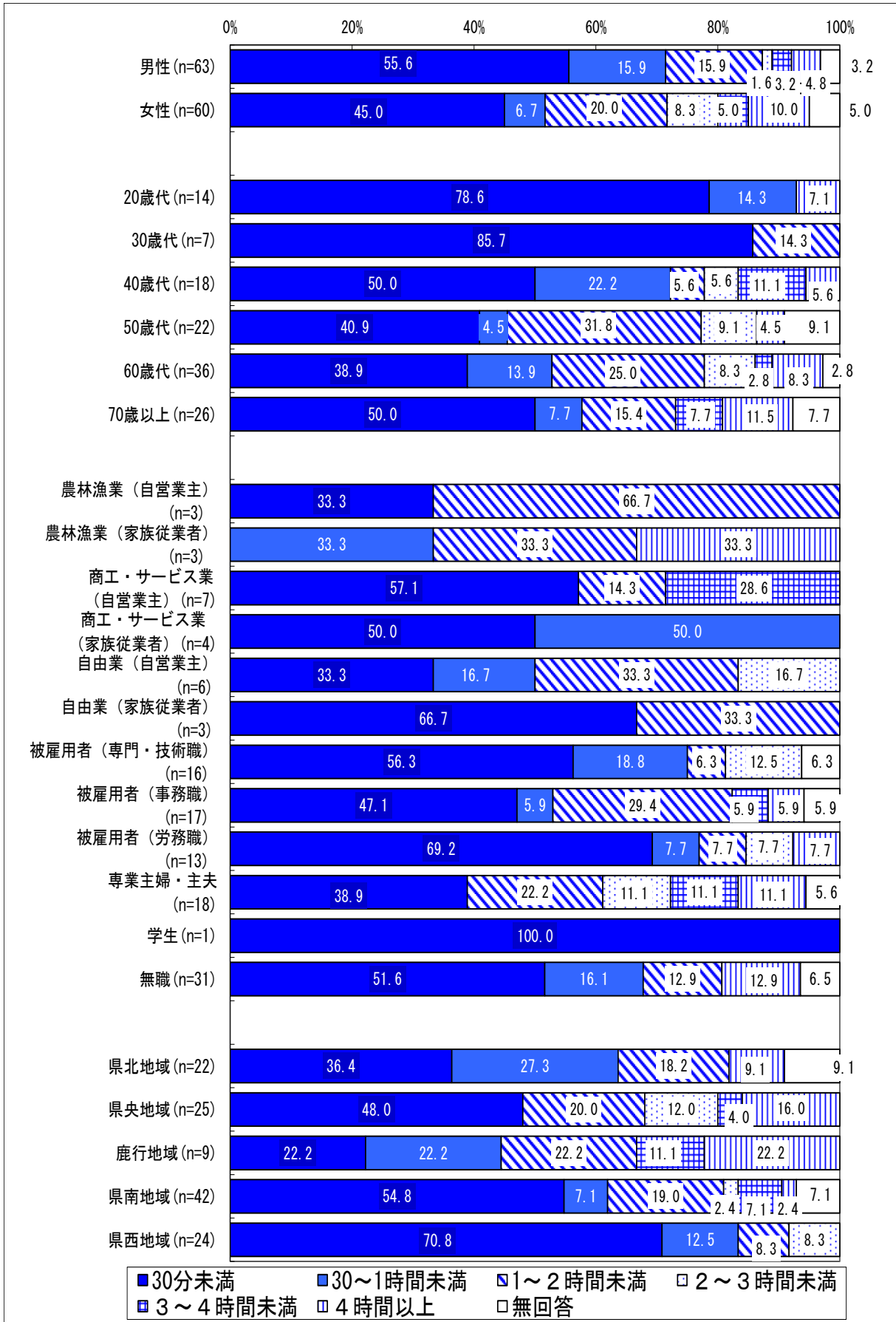
【平日】



【土曜日】



【日曜日】

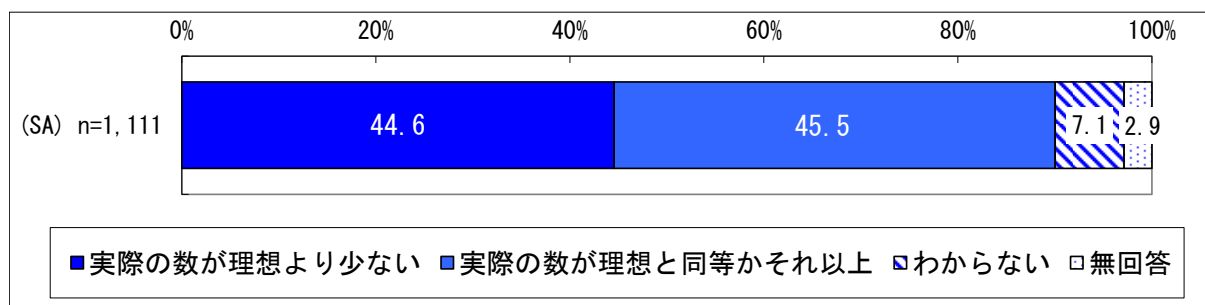
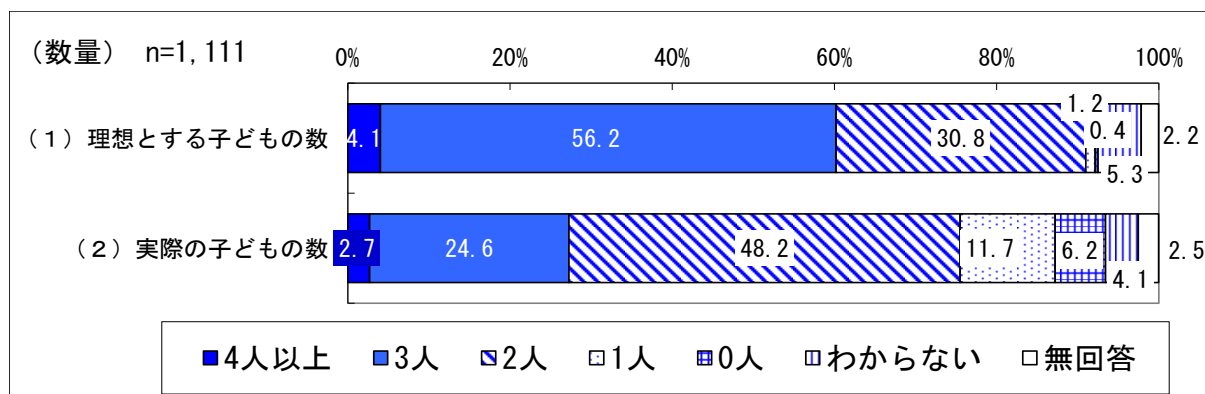


(6) 子どもについての考え

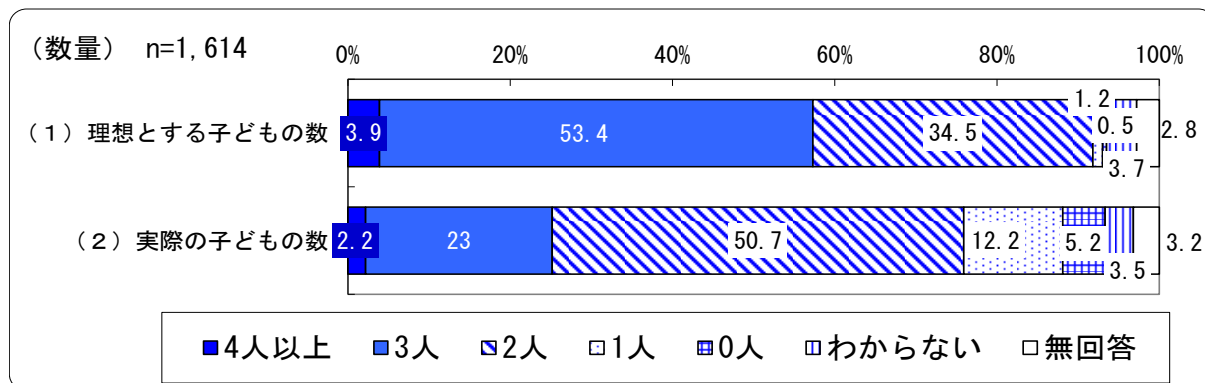
問9 近年、少子化が急速に進んでいますが、子どもの出生数のことでしょうかがいます。

(1) あなたの理想とする子どもの数は何人ですか。(〇は1つ)

(2) 実際の子どもの数(又は実際に子育てできると思う数)は何人ですか。(〇は1つ)



■平成22年茨城県



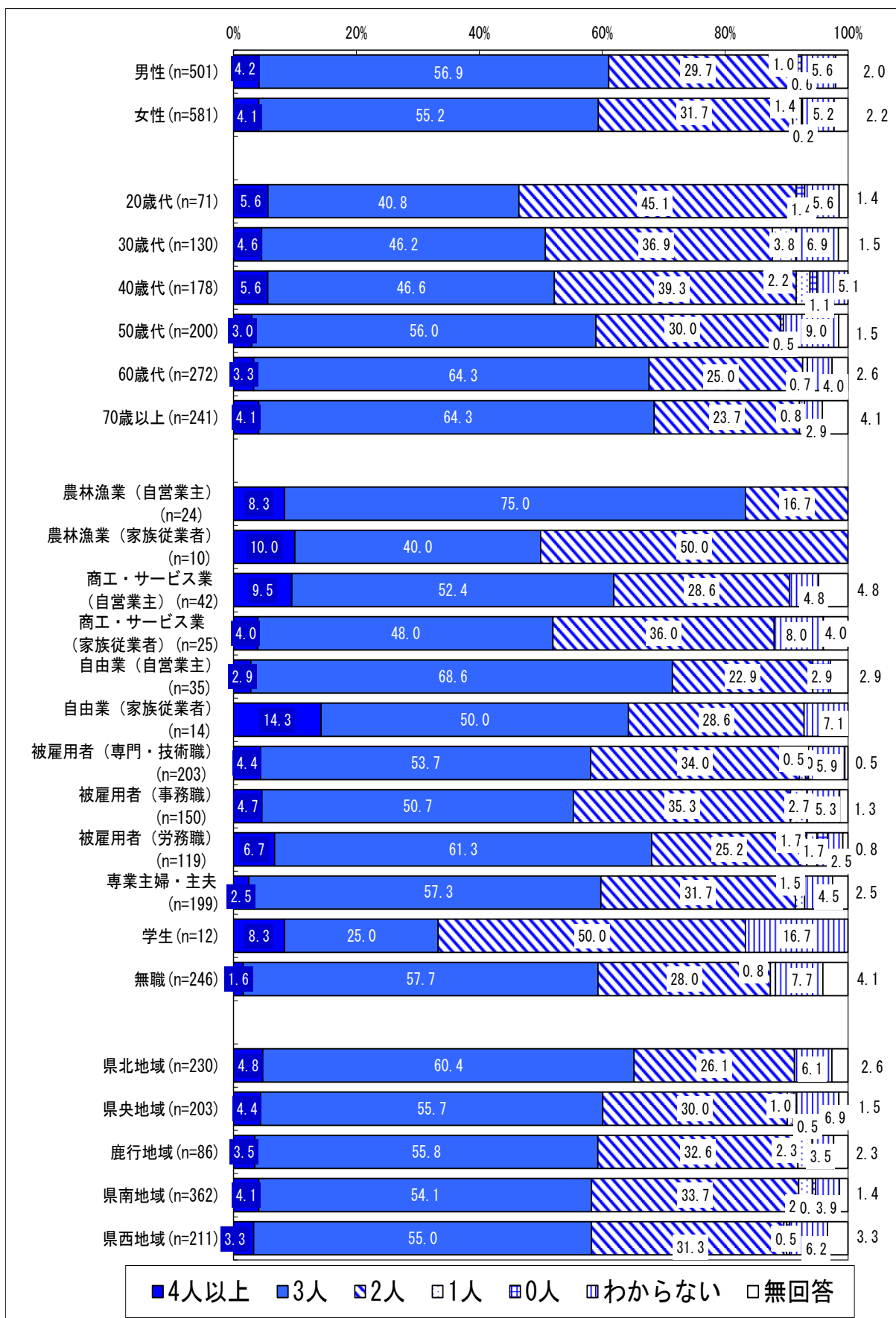
■回答者の4割以上は、理想とする子どもの数より、実際の子どもの数が少ない

理想とする子どもの数は、「3人」が56.2%と最も高く、次いで「2人」が30.8%となっている。実際の子どもの数は、「2人」が48.2%と最も高く、次いで「3人」が24.6%となっており、理想・現実ともに前回調査と同様の傾向になっている。理想と現実を比較すると、44.6%が理想より実際の子どもの数が少ないと回答している。

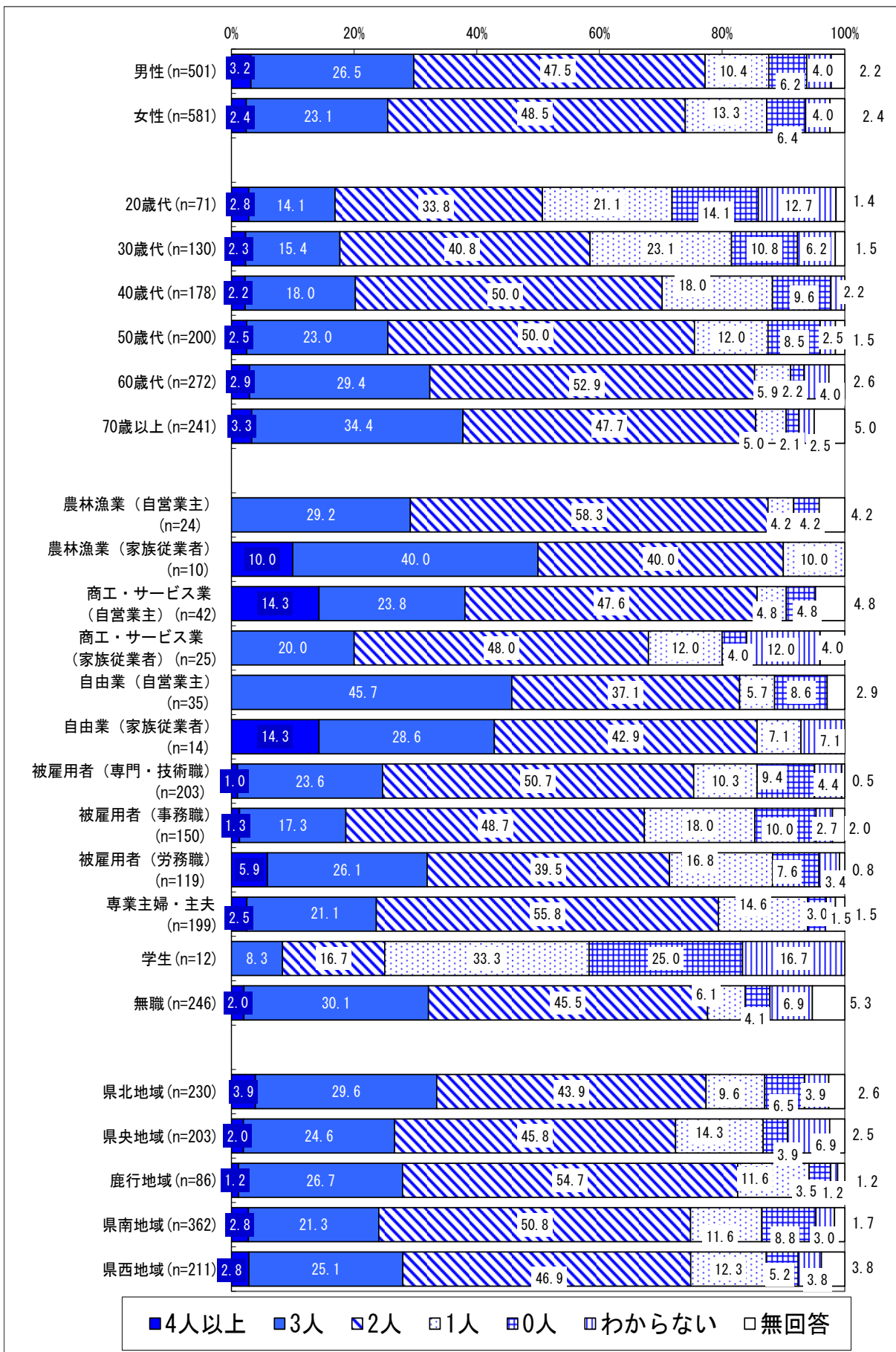
年齢別にみると、理想・現実ともに年齢が高くなるにつれて、「3人」の割合が増え、「2人」の割合が減る傾向にある。また、20歳代では実際の子どもの数(又は実際に子育てできると思う数)は「わからない」との回答が12.7%と他の年齢層に比べて高くなっている。

■子どもについての考え：理想と現実の子どもの数（各属性別）

《理想とする子どもの数》

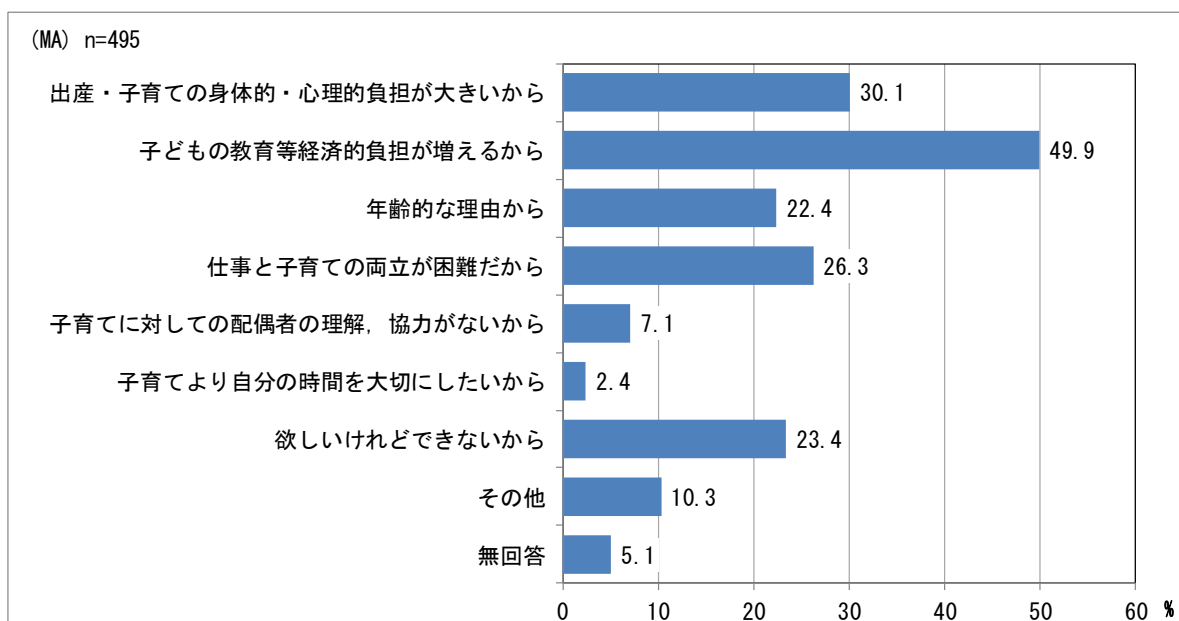


《実際の子どもの数》

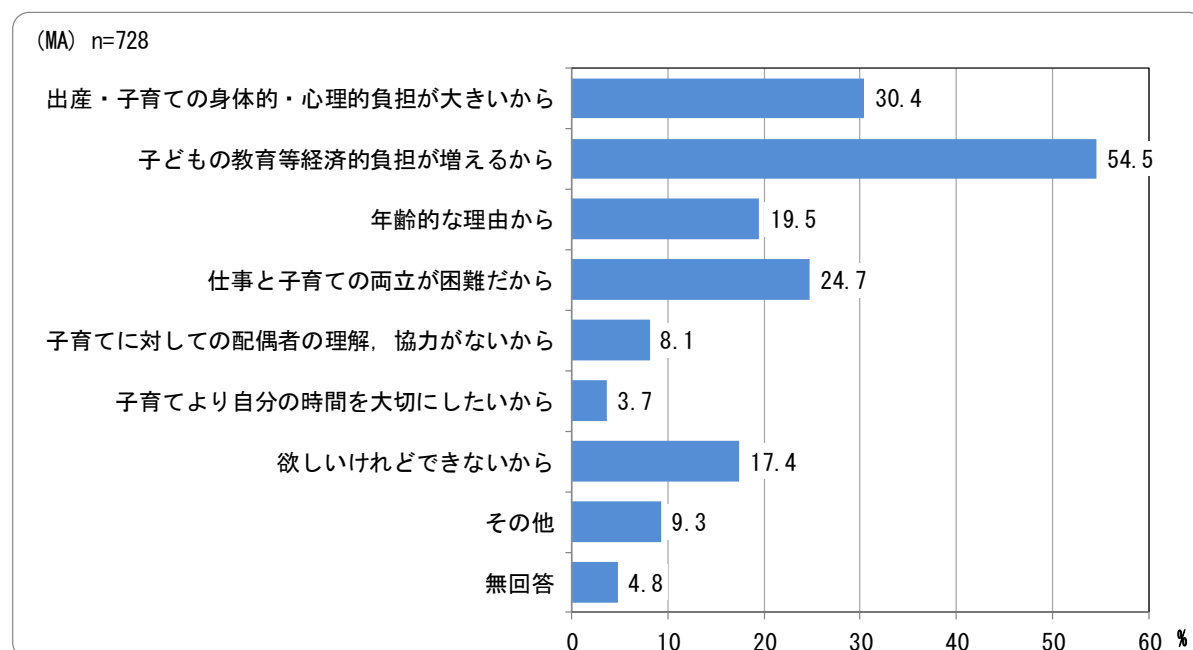


(2) の実際の数が、(1) の理想の数よりも少ない方にうかがいます。

(3) その理由は何ですか。(〇は3つまで)



■平成 22 年茨城県



■「子どもの教育等経済的負担が増えるから」が5割を超え、最多

理想よりも実際の子どもの数が少ない理由については、「子どもの教育等経済的負担が増えるから」が 49.9%と最も高く、次いで「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」が 30.1%、「仕事と子育ての両立が困難だから」が 26.3%となっている。

性別にみると、「子どもの教育等経済的負担が増えるから」(男性：49.1%、女性：49.6%)は男女共ほぼ同じ割合となっているが、「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」(男性：25.2%、女性：34.3%)、「仕事と子育ての両立が困難だから」(男性：20.1%、女性：31.3%)については、いずれも女性が男性を約1割以上上回っている。

■理想より実際の子どもの数が少ない理由（その他回答）

内容	性別	年齢
結婚していないため	女性	20 歳代
	女性	30 歳代
	女性	40 歳代
	男性	20 歳代
	男性	30 歳代
	男性	50 歳代
離婚したから（離婚を考えている）	女性	20 歳代
	女性	30 歳代
	女性	40 歳代
	女性	50 歳代
出産して（子どもが生まれて）間もないから	男性	30 歳代
	女性	30 歳代
子どもが嫌い，欲しいと思わない	男性	30 歳代
	女性	40 歳代
	女性	20 歳代
子どもがいらないからわからない	男性	50 歳代
	男性	70 歳以上
夫（妻）の理解が得られない	男性	40 歳代
	女性	30 歳代
	女性	40 歳代
	女性	60 歳代
夫婦仲に問題があるから	男性	20 歳代
育てられるか不安だから	女性	20 歳代
	女性	30 歳代
	女性	40 歳代
双子だったから	女性	40 歳代
親の意見	女性	50 歳代
子どもをひとり亡くしているから	女性	30 歳代
世界情勢の変化がいちじるしいので	女性	30 歳代
夫の手助けが期待できないから	女性	40 歳代
子どもが二人だと親の愛に疑問を持ってしまいそうだから	女性	70 歳以上
仕事が多忙で家族計画を考える余裕がなかったから	男性	60 歳代
自然に	男性	70 歳以上
女子のみで男子ができなかったから	男性	70 歳以上
複合的理由により	女性	40 歳代
二人出産してどちらも異常分娩だったから	女性	50 歳代
少子化の心配がなかった時代だったから	男性	60 歳代

内容	性別	年齢
妊娠・出産の為産休を使えたとしても復帰後のポジション（役職等）の保障がないため、キャリアを捨ててまた1からやっていくのが困難	女性	30 歳代
体質的に無理なため（持病がある，病弱であるなど）	男性	40 歳代
	男性	60 歳代
	男性	70 歳以上
	女性	30 歳代
	女性	50 歳代
	女性	60 歳代
	女性	70 歳以上
経済的理由	男性	70 歳以上
	男性	30 歳代
ヨーロッパのように子供を持つ家庭に対しての支援が無いから	男性	20 歳代

■実際の子どもの数が理想より少ない理由（各属性別）

単位：%		いから	的産心・理的育	負担が育るから	子どもの教育等経済的	年	困	仕	者	子	を	か	欲	そ	無	
単位：%		いから	的産心・理的育	負担が育るから	子どもの教育等経済的	年	困	仕	者	子	を	か	欲	そ	無	
性別	男性 (n=214)	25.2	49.1	21.5	20.1	4.7	2.3	22.9	10.3	5.6						
	女性 (n=268)	34.3	49.6	22.8	31.3	8.6	2.2	23.5	10.8	4.9						
	不詳 (n=13)	23.1	69.2	30.8	23.1	15.4	7.7	30.8								
年齢別	20歳代 (n=34)	29.4	61.8	8.8	38.2	8.8	2.9	5.9	26.5	2.9						
	30歳代 (n=69)	24.6	56.5	24.6	27.5	10.1	4.3	23.2	15.9	1.4						
	40歳代 (n=92)	37.0	51.1	41.3	29.3	8.7	3.3	29.3	10.9							
	50歳代 (n=91)	39.6	54.9	20.9	27.5	5.5	3.3	25.3	9.9	2.2						
	60歳代 (n=116)	30.2	49.1	21.6	26.7	4.3	0.9	20.7	5.2	4.3						
	70歳以上 (n=84)	19.0	33.3	8.3	16.7	7.1		23.8	7.1	19.0						
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=13)	23.1	46.2	7.7	30.8			38.5	7.7	7.7						
	農林漁業 (家族従業者) (n=2)	50.0			50.0			50.0								
	商工・サービス業 (自営業主) (n=16)	18.8	31.3	31.3	50.0	18.8		18.8	6.3	6.3						
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=13)	38.5	69.2	30.8	30.8	7.7		30.8	7.7							
	自由業 (自営業主) (n=11)	36.4	36.4	18.2	18.2	9.1		36.4		18.2						
	自由業 (家族従業者) (n=4)	25.0	50.0	25.0			25.0	25.0								
	被雇用者 (専門・技術職) (n=94)	24.5	45.7	33.0	26.6	5.3	4.3	19.1	16.0	2.1						
	被雇用者(事務職) (n=81)	33.3	53.1	27.2	30.9	4.9	3.7	34.6	12.3	2.5						
	被雇用者(労務職) (n=58)	27.6	58.6	24.1	27.6	8.6		20.7	8.6							
	専業主婦・主夫 (n=92)	42.4	53.3	19.6	26.1	8.7	1.1	18.5	8.7	4.3						
	学生 (n=6)	33.3	66.7		16.7		16.7		50.0	16.7						
無職 (n=87)	24.1	40.2	10.3	16.1	8.0	1.1	21.8	8.0	13.8							
地域別	県北地域 (n=93)	31.2	54.8	17.2	17.2	9.7	3.2	22.6	12.9							
	県央地域 (n=84)	29.8	46.4	28.6	33.3	6.0		29.8	11.9	3.6						
	鹿行地域 (n=37)	32.4	48.6	29.7	29.7	8.1		18.9	13.5	5.4						
	県南地域 (n=173)	32.9	50.3	21.4	23.7	8.1	4.0	20.8	12.1	6.4						
	県西地域 (n=98)	25.5	48.0	21.4	33.7	3.1	1.0	23.5	3.1	8.2						